

1 教育研究評価に係るアンケート様式

支学機構評企第11号
平成29年7月26日

別紙

各国立大学法人学長 殿
各大学共同利用機関法人機構長 殿

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
福田 秀樹
[公 印 省 略]

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の
教育研究評価に係るアンケートについて (依頼)

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
また、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間の評価の
実施に当たり、ご協力いただき重ねて御礼申し上げます。
当機構においては、第2期中期目標期間の教育研究評価に係る事項について、より実質的な
検証を行うため法人の評価への対応状況や教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、
今後の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。
つきましては、別紙のとおりアンケート調査を実施いたしますので、ご多用のことと存じ
ますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【本件連絡先】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
評価事業部評価企画課法人評価第2係
(担当：濱田、山谷、野人)
〒187-8587 東京都小平市学園西町 1-29-1
Tel:042-307-7910, 7911, 7912
Fax:042-307-1622
E-mail: houjin2@niad.ac.jp

大学等本部向け
達成状況評価

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。
さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、
国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の
評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。
つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何
卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答にあたってのお願い

- 1. 本アンケートでは、当機構が実施した「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち、「**中期目標の達成状況評価**」を中心にご意見を伺います。文部科学省の国立大学法人評価委員会が別途実施いたしました業務運営・財務内容等の評価や年度評価については本調査の対象外となります。
- 2. 学部・研究科等の「現況分析」については、本アンケートでも一部質問しますが、詳細には別途、現況分析に関するアンケートにてご回答いただきます。
- 3. 本アンケートは、大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、貴大学等において**達成状況報告書を中心**にまとめられた方（評価担当学部長、評価室長等）に回答をお願いします。なお、**ご提出いただいた回答は法人名や個人名が特定されないよう処理いたします。**
- 4. 一法人一回答でお願いします。
- 5. 回答様式の色づけされた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
- 6. 回答は、8月15日（水）正午までに提出をお願い申し上げます。

●ご回答者について

- ・貴大学等名： _____
- ・ご所属（部局等）： _____
- ・役職（教授等）： _____
- ・ご芳名： _____
- ・ご回答者の評価に関する役職の名称（例：評価担当学部長、自己点検評価委員会委員長、評価室長等）： _____

- 1. 提出期限 平成29年8月15日（火）正午まで
- 2. 実施方法 下記3種類のアンケート（電子ファイル、共同利用機関法人は①③のみ）をご回答ください。

①教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート
(法人単位で回答)

②学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

③学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

(②③のアンケートは学部・研究科等現況調査表の作成単位で回答)

- 3. 提出方法 各法人で上記アンケートを取り纏めいただき、zipファイルに圧縮の上、オンラインストレージにてご提出ください。なお、アンケートを送付いただく際には、以下の要領に従いファイル名を変更の上、ご提出願います。

※数字及び_(アンダーバー)は半角

zip ファイル名：(法人番号2桁_法人名) 第2期教育研究評価に係るアンケート
(例) 99_小平大学) 第2期教育研究評価に係るアンケート

① 教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート

ファイル名：達成_法人番号2桁_大学名

(例) 達成_99_小平大学

② 学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

ファイル名：現況_教育_法人番号2桁_学部・研究科等番号2桁_法人名_学部・研究科等名

(例) 現況_教育_99_01_小平大学_00_学部

③ 学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

ファイル名：現況_研究_法人番号2桁_学部・研究科等番号2桁_法人名_学部・研究科等名

(例) 現況_研究_99_01_小平大学_00_学部・00_学研究科

- 4. その他 アンケート回答に当たっての留意事項をファイル内に記載しておりますので、ご参照の上、回答願います。

本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について
II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
III 評価による貴大学等での効果・影響について
IV 自己評価のための体制等について
V 今後の評価のあり方について

I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について

問1 達成状況報告書の形式や作成方法について

(1) 達成状況報告書を作成された際、今回の達成状況報告書の形式や作成方法は適切と思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらか	おおむね適切	適切であった	回答
a. 中期計画ごとに達成状況を記載すること。	1	2	3	4	5	
b. 中期計画ごとに大学等が段階判定とその判断理由を記載すること。	1	2	3	4	5	
c. 優れた点・改善を要する点等を大学等が判断して記載すること。	1	2	3	4	5	
d. 個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を大学等が指定すること。	1	2	3	4	5	
e. 中期計画に関連する学部・研究科等の「現況調査表」の分析項目・観点名等を達成状況報告書に記載すること。	1	2	3	4	5	
f. 中期計画に関連する「研究業績証明書」の研究業績番号等を達成状況報告書に記載すること。	1	2	3	4	5	

(2) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

	行いやすかった	それほど行いやすかった	どちらか	おおむね行いやすかった	行いやすかった	回答
	1	2	3	4	5	

(3) 達成状況報告書を作成された際、自己評価を行いたくない点がありましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらともいえない	おおむね当てはまる	回答
a. 中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。	1	2	3	4	5
b. 大学等として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。	1	2	3	4	5
c. 自己評価における段階判定の基準が理解しづらかった。	1	2	3	4	5

(4) 達成状況報告書の具体的な記載内容や、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	全くそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	強くそう思う	回答
a. 活動や成果の記載内容に迷うことがあった。	1	2	3	4	5	
b. どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。	1	2	3	4	5	
c. 根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。	1	2	3	4	5	

(5) 達成状況報告書の字数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

	少なかつた	やや少なかつた	適切であつた	やや多かつた	多かつた	回答
	1	2	3	4	5	

(6) 達成状況報告書の作成について、作成しやすかつた点や、作成が困難であつた点がありましたら、以下にご記入ください。

問2 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。

(1) 貴大学等では達成状況報告書を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

	確認した	確認しなかつた	回答
	1	2	

3

(2) 上の問いで「確認した」と回答された場合、達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考にりましたか。当てはまる番号をご回答ください。

	参考に ならなかつた	参考に あつたが、 根拠となる資料・データはなかつた	根拠となる資料・データとして参考にあつた	根拠となる資料・データとして参考にあつたが、重要な情報になつた	根拠となる資料・データとして参考にあつた	回答
	1	2	3	4	5	

(3) (1)の問いで「確認した」と回答された場合、他大学等のデータや全大学等の傾向等の情報を参照されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

	他大学等のデータは確認しなかつた	他大学等のデータは確認したが、参考になつた	他大学等のデータは確認しなかつた	他大学等のデータは確認したが、参考になつた	他大学等のデータは確認しなかつた	回答
	1	2	3	4	5	

(4) 参考資料について、「データ分析集」へのご意見（たとえば、データ・指標項目、表示方法、提供時期等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

4

問3 貴大学等から提出した達成状況報告書について

提出した達成状況報告書について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらともいえない	おおむね当てはまる	当てはまる	回答
a. 中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。	1	2	3	4	5	
b. 計画実施により得られた成果を明確に示すことができた。	1	2	3	4	5	
c. 評価するのに必要な根拠・データを達成状況報告書に記載することができた。	1	2	3	4	5	
d. 大学等の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。	1	2	3	4	5	
e. 優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。	1	2	3	4	5	
f. 改善を要する点をわかりやすく示すことができた。	1	2	3	4	5	
g. 一般社会の人にも理解しやすい達成状況報告書を作成することができた。	1	2	3	4	5	
h. 全体として、十分に自己評価を行うことができた。	1	2	3	4	5	

5

II 大学改革支援・学位授与機構による評価面・評価結果について

問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	適切でなかつた	あまり適切でなかつた	どちらともいえない	おおむね適切であつた	適切であつた	回答
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	1	2	3	4	5	
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	1	2	3	4	5	
c. ヒアリングの実施方法（時間や進行）	1	2	3	4	5	
d. ヒアリングにおける質疑応答の内容	1	2	3	4	5	

(2) テレビ会議システムを用いたヒアリングを実施した大学等にお聞きします。ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。当てはまる番号をご回答ください。

	できなかつた	あまりできなかつた	どちらともいえない	おおむねできた	できた	回答
	1	2	3	4	5	

(3) 確認事項の照会やヒアリングについて、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

問2 意見の申立てについて

意見の申立ての結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

6

問3 評価結果(評価報告書)について

平成29年6月に公表しました貴大学等の評価結果の内容について、全体的にどのように思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまりでもない	どちらともおおよそ	当てはまる	回答
a. 貴大学等の中期目標・計画を踏まえていた。	1	2	3	4	5
b. 貴大学等の中期目標・計画の達成状況を反映していた。	1	2	3	4	5
c. 貴大学等において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。	1	2	3	4	5
d. 段階判定結果は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5
e. 判定結果の根拠は明確であった。	1	2	3	4	5
f. 総じて、貴大学等の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。	1	2	3	4	5

問4 第1期中期目標期間評価からの評価報告書構成の変更点について

第2期中期目標期間における評価では、評価報告書の構成を以下のように変更しました。これらの変更について、適切と思われましたか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	適切でない	あまり適切でない	どちらともおおよそ	適切である	回答
a. 「特記すべき点」欄の「優れた点」、「特色ある点」、「改善を要する点」のうち主なものを「主な特記すべき点」欄に記載すること。	1	2	3	4	5
b. 現況分析結果の「注目すべき質の向上」等の事項に関連する中項目の「優れた点」として記載すること。	1	2	3	4	5
c. 中期計画ごとの「判定結果一覧表」を記載すること。	1	2	3	4	5

問5 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

<悪い効果・影響>

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

他大学等の中期目標の達成状況に関する評価結果の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

分析した	分析しなかった	回答
1	2	

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

役に立たなかった	あまり役に立たなかった	どちらともおおよそ	役に立った	役に立っていた	回答
1	2	3	4	5	

Ⅲ 評価による貴大学等での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴大学等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われますか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまりでもない	どちらともおおよそ	当てはまる	回答
a. 貴大学等の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。	1	2	3	4	5
b. 教育研究の課題が把握できた。	1	2	3	4	5
c. 全体的にみて、教育活動が改善した。	1	2	3	4	5
d. 全体的にみて、研究活動が改善した。	1	2	3	4	5
e. 貴大学等の個性の伸長を促進できた。	1	2	3	4	5
f. 教職員の間で大学等の目標や方向性が共有された。	1	2	3	4	5
g. 執行部のリーダーシップが高まった。	1	2	3	4	5
h. 社会に対し貴大学等の活動を説明することの重要性が学内に浸透した。	1	2	3	4	5
i. 社会への説明責任が果たされた。	1	2	3	4	5
j. 大学等間の競争意識が生まれた。	1	2	3	4	5

問2 評価結果の活用予定について

貴大学等において、今回の中期目標の達成状況に関する評価結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

回答	平成	年	月頃
----	----	---	----

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、達成状況報告書の作成作業を行った体制についてお聞きします。

① 自己評価委員会などの組織を設置して達成状況報告書の作成作業を行った場合、その大きな体制(組織構成および、それらの構成員数・達成状況報告書作成開始以降の作成のための会議の開催回数)を以下にご記入ください。

【記載例】自己評価委員会(10人、6回開催)、教育評価WG(10人、8回開催)、研究評価WG(10人、8回開催)

② 評価を主な職務として担当した教員・職員のうち、達成状況報告書の作成(現況調査表は除く)を担当したおおよわねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、達成状況報告書作成開始以降から提出までの職務の半分が報告書作成に関する業務であれば0.5人。フルタイム換算での回答がしづければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

回答		人
教員等	理事・副学長、評価室等の長	
	上記以外の教員	
職員	部長、課長級	
	課長補佐、係長級	
	主任、係員級	
	事務補佐員等	
その他()		

(3) 達成状況報告書の作成において、大学等内でデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員（IR、URA など）が関与しましたか。関与していた場合、中期目標の教育・研究・その他の目標ごとに、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

回答	中期目標	部署名、専門人材の職名等	関与の程度
	教育に関する目標		
	研究に関する目標		
	その他の目標（社会連携・国際など）		
【記載例】	教育に関する目標	IR室 URAセンター	4 2

- 2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の達成状況報告書の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった	回答
1	2	3	4	5	

(5) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表（研究業績説明書含む）について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や調整を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

ほとんど行わなかった (含での記載内容の2割未満)	一部のみ行った (2～4割程度)	ある程度行った (4～6割程度)	おおむね行った (6～8割程度)	十分に行った (8割以上)	回答
1	2	3	4	5	

(6) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きします。

① 作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

- 大学等内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。
- これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。
- 目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。

② 上記以外に作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 機構による説明会（平成27年7月実施）について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

参加して理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらともいえない	おおむね理解できた	理解できた	回答
0	1	2	3	4	5

問3 実績報告書作成要領について

達成状況報告書の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらともいえない	おおむね理解できた	理解できた	回答
1	2	3	4	5	

問4 評価作業の体制の課題（現況調査表作成を含む）や、機構による説明・問い合わせ対応など、作業全般についてお気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について
第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきとお考えですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

学部・研究科等向け
現況分析【教育】

	全くそう 思わない	そう 思わない	どちらか も 思えない	そう 思う	強く そう 思う	回答
a. 大学等の個性の伸長に、より寄与すべきである。	1	2	3	4	5	
b. 大学の短型（各国立大学法人の機能強化の方向性に 応じた運営費交付金に係る3つの重点支援枠など） ごとの機能強化に、より寄与すべきである。	1	2	3	4	5	
c. 中期目標・計画の達成状況の報告による社会への説 明責任に、より焦点をおくべきである。	1	2	3	4	5	
d. 大学等内の管理運営サイクルの向上に、より寄与す べきである。	1	2	3	4	5	
e. 教育・研究活動の質的向上に、より寄与すべきであ る。	1	2	3	4	5	
f. 大学等の教育研究の国際的水準や国際的競争力の向 上に、より寄与すべきである。	1	2	3	4	5	
g. 大学等内における業務や組織の改廃の判断へ、より 寄与すべきである。	1	2	3	4	5	
h. 運営費交付金の算定へ、より影響すべきである。	1	2	3	4	5	
i. 大学等への公的支出の意義の明確化に、より寄与す べきである。	1	2	3	4	5	
j. 大学等間の競争意識の向上に、より寄与すべきであ る。	1	2	3	4	5	
k. 大学等に対する他の評価との関係を含めて、評価内 容を整理すべきである。	1	2	3	4	5	

問2 今後の中期目標期間評価の方向性や評価方法のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケートでは、当機構が実施した、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち**学部・研究科等を対象とする現況分析**についてお問い合わせいたします。
- 回答は**現況調査表を提出した単位ごと**（学部の教育水準、研究科の教育水準、学部・研究科の研究水準など）をお願いいたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケート用紙にてご回答ください。
- 本アンケートは大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等においてそれぞれの現況調査表を中心とまとめられた方（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
- ご提出いただいた回答は、法人名・部署名や個人名が特定されないよう**に処理いたします。
- 回答様式のおつけられた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
- 回答は、8月13日（水）正午までに提出をお願い申し上げます。

●ご回答について

- 貴大学等名： _____
- ご所属（部局等）： _____
- 役職（教授等）： _____
- ご芳名： _____
- 作成を担当された現況調査表の学部・研究科等名 _____

ご回答者の評価に関する役職の名称（例：学部長、研究科長、評価委員長）： _____

貴学部・研究科等の学系（当てはまる番号をご記入ください）

1. 人文科学 2. 社会科学 3. 理学 4. 工学 5. 農学 6. 保健 7. 教育 8. 総合科学（理系）
9. 総合科学（文系） 10. 総合科学（融合） 11. 特定領域 12. 大学共同利用機関

- 本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
- I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について
 - II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
 - III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について
 - IV 自己評価のための体制等について
 - V 今後の評価のあり方について

I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の形式や作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に比べているか、という観点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

作成しづ らかった	やや作成 しづら かった	どちらと も言えな い	おおむね 問題なく 作成でき た	問題なく 作成でき た	回答
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

(2) 現況調査表では、分析項目「I 教育活動の状況」、「II 教育成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれ項目について、記載は容易でしたか。難しかったですか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

a. 「I 教育活動の状況」 教育実施体制 教育内容・方法	難し かつた	やや難 し かつた	どちら も言え ない	やや容 易 だ つた	容 易 だ つた	回答
b. 「II 教育成果の状況」 学業の成果 進路・就職の状況	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
c. 「質の向上度」	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このことについて、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたとお考えですか。

全くそ う思わ ない	そう思 わない	どちら も言え ない	そう思 う	強くそ う思 う	回答
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

a. 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。	
b. 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。	
c. 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。	
d. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。	
e. 例示の数を少なくすると良いと感じた。	
f. 例示をより具体的にすると良いと感じた。	
g. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

確認し た	確認し なかつ た	回答
1 ----- 2		

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。当てはまる番号をご回答ください。

参考にな る情報で はあつ た	根拠とな る資料 があつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	回答
参考にな る情報で はあつ た	根拠とな る資料 があつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	根拠とな る資料・ データ として あつ た	
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

(3) 参考資料について、「参考例」、「データ分析集」へのご意見（たとえば、その内容や、提供時期・方法等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

② このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

全くそ う思わ ない	そう思 わない	どちら も言え ない	そう思 う	強くそ う思 う	回答
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。					
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。					

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

わかり づら かつた	ややわ かり づら かつた	どちら も言え ない	おおむ ね明 確であ つた	明確 であ つた	回答
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

少な かつ た	やや少 な かつ た	適切 だ つた	やや多 かつ た	多 かつ た	回答
1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

(6) 現況調査表の作成について、作成しやすかつた点や、作成が困難であつた点がありましたら、以下にご記入ください。

問2 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの教育活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/syoumail/

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

確認し た	確認し なかつ た	回答
1 ----- 2		

※該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む

問3 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	当ては まら ない	あまり あ つ た	どちら も言 え な い	おおむ ねあ つ た	あ つ た	回答
b. 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
c. 教育活動による成果を具体的に説明することができた。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
d. 教育活動の優れている点を具体的に説明することができた。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
e. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
f. 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					
g. 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。	1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5					

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	適切でな かった	あまり適 切では なかつ た	どちら も言え ない	どちら もおお むねに 適切で あった	適切で あった	回答
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	1	2	3	4	5	
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	1	2	3	4	5	

問2 評価結果（現況分析結果）について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのように思われましたか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはま らない	あまり 当ては まらな い	どちら も言え ない	どちら もおお むねに 当ては まる	当ては まる	回答
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	1	2	3	4	5	
b. 貴学部・研究科等の教育の実態を反映していた。	1	2	3	4	5	
c. 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5	
d. 観点を判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5	
e. 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5	
f. 質の向上度の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5	
g. 全体的に、適正に評価された。	1	2	3	4	5	

問3 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

<悪い効果・影響>

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果（現況分析結果）の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

	分析しな かった	分析し た	回答
1	2		

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

	役に立 たな かつ た	あまり 役に 立 たな かつ た	どちら も言 えな い	どちら もお おほ むね に役 に立 った	役に 立 った	回答
1	2	3	4	5		

III 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった（あるいは今後に顕在化する）と思われますか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはま らない	あまり 当ては まらな い	どちら も言え ない	どちら もおお むねに 当ては まる	当ては まる	回答
a. 教育・学習の成果を重視するようになった。	1	2	3	4	5	
b. 教育活動の質保証体制を構築した。	1	2	3	4	5	
c. 教育内容の体系性を意識するようになった。	1	2	3	4	5	
d. 特色ある取り組みを促進した。	1	2	3	4	5	
e. 学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。	1	2	3	4	5	
f. 教育活動の今後の課題を把握できた。	1	2	3	4	5	
g. 教職員の間で教育活動についての組織的な方向性が共有された。	1	2	3	4	5	
h. 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。	1	2	3	4	5	
i. 社会に対し大学等の教育活動を説明することの重要性が浸透した。	1	2	3	4	5	
j. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	1	2	3	4	5	
k. 大学等間の競争意識が生まれた。	1	2	3	4	5	
l. 全体的に見て、教育活動の改善に寄与した。	1	2	3	4	5	

問2 評価結果の活用予定について

貴学部・研究科等において、今回の現況分析結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 教育に関する現況調査表の作成（各分析項目・観点を記載）を開始した時期をご回答ください。

回答	平成	年	月頃
----	----	---	----

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、教育に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞かせください。

① 学部・研究科等に自己評価委員会などの組織を設置して現況調査表の作成作業を行った場合、その大きな体制（組織構成および、それらの構成員数・現況調査表作成に係る会議の開催回数）を以下にご記入ください。

【記載例】○学部自己評価委員会（10人、6回開催）、教育評価WG（10人、8回開催）

② 貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、教育に関する現況調査表の作成（達成状況報告書は除く）を担当したおおよねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください（たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、教育の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です）。

回答			
教員等	理事・副学長、評価室等の長		人
	学部長・研究科長等		人
	副学部長・副研究科長等		人
	上記以外の教員		人
職員	部長、課長級		人
	課長補佐、係長級		人
	主任、係員級		人
	事務補佐員等		人
	その他（ ）		人

(3) 教育に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において教育に関するデータの収集・分析を行う専門的な部署や人員（IRなど）が関与したか、関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

回答	部署名、専門人材の職名等	関与の程度
【記載例】	IR室 教育開発センター	4 2

- 2割未満の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の記載についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった
1	2	3	4	5
回答				

(5) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらとも言えない	おおむね理解できた	理解できた
1	2	3	4	5
回答				

問3 評価の作業全般について、お気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

10

学部・研究科等向け
現況分析「研究」

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート

平素より、当機構における評価事業に対し、ご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、当機構では、この度の国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究評価について、国立大学法人評価への対応状況や、今後の教育研究評価のあり方に対するご意見を集約し、将来の評価システムの設計の参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケート調査を実施しますので、ご多用のことと存じますが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。

ご回答にあたってのお願い

- 本アンケートでは、当機構が実施した、「国立大学法人及び大学共同利用機関法人（以下「大学等」という。）における教育研究の状況についての評価」のうち**学部・研究科、研究所、センターなど（以下「学部・研究科等」という。）を対象とする現況分析**についてお伺いします。
- 回答は**現況調査表を提出した単位ごと**（学部の教育水準、研究科の教育水準、学部・研究科の研究水準など）をお願いいたします。「教育の現況分析」と「研究の現況分析」では質問内容が一部異なりますので、該当するアンケート用紙にてご回答ください。
- 本アンケートは大学等からの率直なご意見を伺い、今後の評価の改善に資することを目的に行います。そのため、回答は貴学部・研究科等において**それぞれの現況調査表を中心的にまとめた方**（学部長・研究科長、評価委員長等）をお願いいたします。
- ご提出いただいた回答は、法人名・部局名や個人名が特定されないように処理いたします。**
- 回答様式の色づけされた欄に回答を入力ください。黄色の回答欄では、プルダウンから回答を選択してください。また、自由記述欄で回答欄が不足する場合は、行の高さを調整してください。
- 回答は、8月15日（水）正午までにご提出をお願い申し上げます。

●ご回答者について

- 貴大学等名： _____
- ご所属（部局等）： _____
- 役職（教授等）： _____
- ご芳名： _____
- 作成を担当された現況調査表の学部・研究科等名 _____

ご回答者の評価に関する役職の名称（例：学部長、研究科長、評価委員長）： _____

- 貴学部・研究科等の学系（当てはまる番号をご記入ください）
- 1. 人文科学 2. 社会科学 3. 理学 4. 工学 5. 農学 6. 保健 7. 教育 8. 総合科学（理系）
- 9. 総合科学（文系） 10. 総合科学（融合） 11. 特定領域 12. 大学共同利用機関

1

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	全くそう 思わない	そう思わ ない	どちらと も考えな い	どちらと そう思う	強くそう 思う	回答	
a.	今後も各学系（分野）の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	1	2	3	4	5	
b.	現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。	1	2	3	4	5	
c.	共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	1	2	3	4	5	
d.	学系（分野）ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	1	2	3	4	5	
e.	現況調査表の分量をより少なくすべきである。	1	2	3	4	5	
f.	評価報告書の分量をより少なくすべきである。	1	2	3	4	5	
g.	評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。	1	2	3	4	5	
h.	評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	1	2	3	4	5	

問2 今後の現況分析のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

11

- 本アンケートでは、以下の5つの内容に大別して、お伺いします。
- I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について
 - II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について
 - III 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について
 - IV 自己評価のための体制等について
 - V 今後の評価のあり方について

I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で**想定する関係者の期待に込めているか**、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

作成できなかった	やや作成しづらかった	どちらとも言えない	おおむね問題なく作成できた	問題なく作成できた
1	2	3	4	5
回答				

(2) 現況調査表では、分析項目「I 研究活動の状況」、「II 研究成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、**記載は容易でしたか**、**難しかった**ですか。項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	難しかった	やや難しかった	どちらとも言えない	やや容易だった	容易だった	回答	
a.	「I 研究活動の状況」 研究活動の状況 共同利用・共同研究の実施状況	1	2	3	4	5	
b.	「II 研究成果の状況」 研究成果の状況	1	2	3	4	5	
c.	「質の向上度」	1	2	3	4	5	

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに**具体的に何を記載するか**や、**どのような指標となる資料・データを示すか**は、各大学等に委ねていました。このことについて、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

① このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと感じましたか。

全くそう 思わない	そう思わ ない	どちらと も考えな い	どちらと そう思う	強くそう 思う
1	2	3	4	5
回答				

2

② このような方法によって、以下のような問題を感じられましたか。

	全くもうそう思わない 思わない	どちらとも いえない	どちらとも 思う	強くそう 思う	回答
a. 活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	1	2	3	4	5
b. 根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	1	2	3	4	5

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

わかりづ らかった	ややわか りづら かった	どちらと も言えな い	おおむね 明確で あった	明確で あった	回答
1	2	3	4	5	

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。当てはまる番号をご回答ください。

少なかつ た	やや少な かった	適切だ った	やや多 かった	多かつ た	回答
1	2	3	4	5	

(6) 現況調査表の作成について、作成しやすかった点や、作成が困難であった点がありましたら、以下にご記入ください。

問2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果（論文等）を最大3つまで記載する方式をとり、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。当てはまる番号をご回答ください。作成しづらい点があった場合は、具体的な内容もご記入ください。

作成しづ らい点があ った	作成しづ らい点は なかった	回答
1	2	

作成しづらい点があった場合、具体的な内容を以下にご記入ください。

3

② 社会、経済、文化的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

2割未満 の業績で みに確信 をもって 判断を下 すことが できた	2~4割 の業績で みに確信 をもって 判断を下 すことが できた	4~6割 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	6~8割 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	8割以上 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	回答
1	2	3	4	5	

(4) 第1期中目標期間の国立大学法人評価では、各研究業績の意義について「学術的意義」と「社会、経済、文化的意義」のどちらか一方から選択することを求めています。今回の評価では、各研究業績で両方の意義を同時に選択することも可能となりました。それにより研究業績説明書は作成しやすかったですか。作成しづらかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

作成しづ らかった	やや作成 しづら かった	どちらと も言えな い	おおむね 作成しや すかった	作成しや すかった	回答
1	2	3	4	5	

(5) 今回の研究業績説明書の作成において、特に困難であった点や、適切であったと思われる点がありましたら、以下にご記入ください。

問3 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの研究活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表した。

http://www.niad.ac.jp/n_shuppan/project/syousai/

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

確認した	確認しな かった	回答
1	2	

※該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む

5

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。

① 「学術的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

非常に少 なかつた (~2割未 満)	少なかつ た(2~4 割未満)	ある程度 あった(4 割~6割未 満)	多かった (6~8割未 満)	非常に多 かった(8 割~)	回答
1	2	3	4	5	

② 「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

非常に少 なかつた (~2割未 満)	少なかつ た(2~4 割未満)	ある程度 あった(4 割~6割未 満)	多かった (6~8割未 満)	非常に多 かった(8 割~)	回答
1	2	3	4	5	

(3) 研究業績の選定に際しては、「学術的意義」および/あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。

区分	学術的意義	社会、経済、文化的意義
SS	当該分野において、 <u>卓越した水準</u> ⁽¹⁾ にある	社会、経済、文化への <u>貢献が卓越</u> ⁽²⁾ している
S	当該分野において、 <u>優秀な水準</u> ⁽¹⁾ にある	社会、経済、文化への <u>貢献が優秀</u> ⁽²⁾ である

注1)
 ・「卓越した水準 (SS)」とは、研究業績の独創性、新規性、発展性、有用性、他分野への貢献などの点において、客観的指標等から判断して、当該分野で学術的に最も優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において極めて重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。
 ・「優秀な水準 (S)」とは、SSにまでは至らないが、当該分野で学術的に優れた研究の一つであると認められ、当該分野ないし関連する分野において重要な影響をもたらしている水準にあることを指します。

注2)
 ・「貢献が卓越 (SS)」とは、以下の領域において、客観的指標等から判断して、極めて重要な影響や極めて幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。
 ・「貢献が優秀 (S)」とは、SSにまでは至らないが、重要な影響や幅広い影響をもたらしている水準にあることを指します。

① 学術的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

2割未満 の業績で みに確信 をもって 判断を下 すことが できた	2~4割 の業績で みに確信 をもって 判断を下 すことが できた	4~6割 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	6~8割 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	8割以上 の業績で 確信を もって判 断を下す ことが できた	回答
1	2	3	4	5	

4

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

回答
a. 事前に記載する取組や成果のイメージがついた。
b. 現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。
c. 観点ごとの段階判定をする際の参考になった。
d. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。
e. 例示の数を少なくすると良いと感じた。
f. 例示をより具体的にすると良いと感じた。
g. 自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。

③ 「参考例」には、研究業績説明書を作成する際に参考にし得るよう「卓越した研究業績の根拠・データ例」を記載していただきました。研究業績説明書の作成において参照されましたか。当てはまる番号をご回答ください。

参照した	参照しな かった	回答
1	2	

④ 上の問いで「参照した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください（複数選択可）。

回答
a. 事前に根拠データのイメージがついた。
b. 多様な根拠データがありうることが理解できた。
c. 例示の種類がより多ければ良いと感じた。
d. 例示をより限定すると良いと感じた。
e. 選定した研究業績の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。
f. 根拠データ例ごとに「SS」、「S」、「S未満」の判定基準の提示が必要と感じた。

6

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか、当てはまる番号をご回答ください。

確認した	確認しなかった	回答
1	2	

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか、当てはまる番号をご回答ください。

参考となる情報ではなかった	参考となる情報であったが、根拠となる資料・データにはならなかった	根拠となる資料・データとして多く利用された	根拠となる資料・データと併用した	根拠となる資料・データと併用し、重要な情報であった	回答
1	2	3	4	5	

(3) 参考資料について、「参考例」、「データ分析集」へのご意見（たとえば、その内容や、提供時期・方法等）や、大学等に提供することが必要な他の参考情報についてのご意見がありましたら、以下にご記入ください。

問4 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらかとおおむね当てはまる	当てはまる	回答
a. 学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	1	2	3	4	5
b. 「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。	1	2	3	4	5
c. 研究活動による成果を具体的に説明することができた。	1	2	3	4	5
d. 研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。	1	2	3	4	5
e. 評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。	1	2	3	4	5
f. 一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。	1	2	3	4	5
g. 全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。	1	2	3	4	5

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	適切でなかった	あまり適切でなかった	どちらかとおおむね適切であった	適切であった	回答
a. 確認事項の照会や資料提出の依頼の方法（時期や量）	1	2	3	4	5
b. 確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	1	2	3	4	5

問2 評価結果（現況分析結果）について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果（現況分析結果）の内容について、全体的にどのように思われましたか、以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらかとおおむね当てはまる	当てはまる	回答
a. 貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	1	2	3	4	5
b. 貴学部・研究科等の研究の実態を反映していた。	1	2	3	4	5
c. 各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5
d. 観点の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5
e. 質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5
f. 質の向上度の判断理由に書かれた内容（指摘点）は納得のいくものであった。	1	2	3	4	5
g. 全体的に、適正に評価された。	1	2	3	4	5

問3 研究業績の水準判定結果について

(1) 現況分析結果には、2人の評価者が「SS」と判定した研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか、当てはまる番号をご回答ください。

納得できなかった	あまり納得できなかった	どちらかとおおむね納得できた	納得できた	回答
1	2	3	4	5

(2) 現況分析結果には、提出された研究業績のうち、「SS」や「S」と判定された割合を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか、当てはまる番号をご回答ください。

納得できなかった	あまり納得できなかった	どちらかとおおむね納得できた	納得できた	回答
1	2	3	4	5

問4 評価報告書や評価結果について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった（あるいは今後に顕在化する）と思われるか、項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	当てはまらない	あまり当てはまらない	どちらともおおよそ	当てはまる	回答
a. 研究成果の質や水準を重視するようになった。	1	2	3	4	5
b. 研究成果の社会・経済・文化的意義を重視するようになった。	1	2	3	4	5
c. 萌芽的な研究や挑戦的な研究を重視するようになった。	1	2	3	4	5
d. 研究に関する学部・研究科等内の戦略（重点分野等）形成を重視するようになった。	1	2	3	4	5
e. 研究活動の今後の課題を把握できた。	1	2	3	4	5
f. 教職員の間で研究活動についての組織的な方向性が共有された。	1	2	3	4	5
g. 学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。	1	2	3	4	5
h. 若手教員の研究活動が把握され、活性化できた。	1	2	3	4	5
i. 社会に対し大学等の研究活動を説明することの重要性が浸透した。	1	2	3	4	5
j. 学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	1	2	3	4	5
k. 大学等間の競争意識が生まれた。	1	2	3	4	5
l. 全体的に見て、研究活動の改善に寄与した。	1	2	3	4	5

問2 評価結果の活用予定について

貴学部・研究科等において、今回の現況分析結果の具体的な活用の予定や、評価実施による良い効果・影響、悪い効果・影響がありましたら、以下にご記入ください。

<具体的な活用の予定>

<良い効果・影響>

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成（各分析項目・観点の記載や研究業績説明書の作成）を開始した時期をご回答ください。

回答 平成 年 月頃

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、研究に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

① 学部・研究科等内に自己評価委員会などの組織を設置して現況調査表の作成作業を行った場合、その大まかな体制（組織構成および、それらの構成員数・現況調査表作成に係る会議の開催回数）を以下にご記入ください。

【記載例】○○学部自己評価委員会（10人、6回開催）、研究業績選定CC（10人、8回開催）

② 貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、研究に関する現況調査表の作成（達成状況報告書は除く）を担当したおおよわの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください（たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、研究の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人、フルタイム換算での回答がしづらければ、入/日、入/月などの回答でも結構です）。

回答		人
教員等	理事・副学長、評議室等の長	人
	学部長・研究科長等	人
	副学部長・副研究科長等	人
職員	上記以外の教員	人
	部長、課長級	人
	課長補佐、係長級	人
	主任、係員級	人
	事務補佐員等	人
その他（ ）	人	

<悪い効果・影響>

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果（現況分析結果）の内容の分析を行いましたか。当てはまる番号をご回答ください。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

分析した	分析しなかった	回答
1	2	

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。

役に立たなかった	あまり役に立たなかった	どちらとも言えない	おおよそ役に立った	役に立った	回答
1	2	3	4	5	

(3) 研究に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において研究に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員（IRやIRAなど）が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

回答	部署名、専門人材の職名等	関与の程度
【記載例】	IR室 IRA	4 2

- 2割未満の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 2～4割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 4～6割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 6～8割の記載についてデータ作成・分析に関与した
- 8割以上の記載についてデータ作成・分析に関与した

(4) 今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。当てはまる番号をご回答ください。

多かった	やや多かった	適切であった	やや少なかった	少なかった	回答
1	2	3	4	5	

(5) 今回の現況調査表の作成作業を効率的に実施できた要因、反対に作業負担が多くなった要因がありましたら、以下にご記入ください。

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。当てはまる番号をご回答ください。

理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらとも言えない	おおよそ理解できた	理解できた	回答
1	2	3	4	5	

問3 評価の作業全般について、お気づきの点がありましたら、以下にご記入ください。

Ⅳ 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、**どのような評価のあり方を望まれますか**。以下の項目ごとに当てはまる番号をご回答ください。

	全く 思わ ない	そう 思わ ない	ど ちら も 評 え な い	そ う 思 う	強 く そ う 思 う	回答
【現況分析】						
a. 今後も各学系（分野）の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	1	2	3	4	5	
b. 現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。	1	2	3	4	5	
c. 共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	1	2	3	4	5	
d. 学系（分野）ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	1	2	3	4	5	
e. 現況調査表の分量をより少なくすべきである。	1	2	3	4	5	
f. 評価報告書の分量をより少なくすべきである。	1	2	3	4	5	
g. 評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。	1	2	3	4	5	
h. 評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	1	2	3	4	5	
【研究業績水準判定】						
i. 今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法（ピア・レビュー）で評価を実施すべきである。	1	2	3	4	5	
j. 提出する研究業績教の上限を増やすべきである。	1	2	3	4	5	
k. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を大学等に通知すべきである。	1	2	3	4	5	
l. 提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。	1	2	3	4	5	
m. 個々の研究業績の提出内容（研究業績説明書）についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。	1	2	3	4	5	

問2 今後の現況分析(研究業績水準判定含む)のあり方について、ご意見がありましたら、以下にご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

第2期国立大学法人等教育研究評価
達成状況判定会議 専門委員 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
福田 秀樹
[公 印 省 略]

国立大学法人等の教育研究評価に係るアンケートについて（依頼）

平素より、当機構における評価事業に対し、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、中期目標の達成状況評価に係る作業にご協力いただき、誠にありがとうございます。

当機構では、このたびの国立大学法人等の教育研究評価について、評価をご担当いただいた委員から、評価作業の課題やご意見をいただき、今後の評価の改善に向けて参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきたいので、ご多忙のところお手数をかけますが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

なお、いただいたご回答は集計の上、当機構が発行する報告書にて、個人が特定されない形式で公表する予定であることを申し添えます。

記

1. 回答期限 平成29年5月10日（水）

2. 実施方法

① 下記URLのWEBアンケートシステムにアクセスして下さい。

https://www6.webeas.net/form/pub/niad/tassei_e5dk23hmze

② メールアドレス（本件依頼の連絡を受信したもの）、パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）を入力し、ログインの上、回答して下さい（全35問）。

[本件連絡先]
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課 法人評価第2係
浜田、山谷、野入
Tel 042-307-7910、7911、7912
Fax 042-307-1622
E-mail tassei3@niad.ac.jp

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート
ご協力をお願い

このたびは、第2期中期目標期間の教育研究評価における中期目標の達成状況評価にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

機構では評価実施後に、評価者の皆様から、評価作業の課題や今後の評価の在り方についてご意見をいただき、改善に役立てていくこととしております。つきましては、アンケートにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは、評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることはないことを付言いたします。

メールアドレス(本件依頼の連絡を受信したもの)・パスワード(依頼後に別メールにてお知らせしたもの)をご入力ください。

メールアドレス
(本件依頼の連絡を受信したもの)

パスワード
(依頼後に別メールにてお知らせしたもの)

ログイン

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

○今回実施した達成状況評価の概要

達成状況評価は、各国立大学法人等から提出された「達成状況報告書」等を基に、主担当、副担当の方に評価作業を行っていただき、その結果を、達成状況判定会議、ヒアリングの場で、チーム主査、主担当、副担当、有識者に審議・確認いただく方法としておりました。

評価では、中期目標・計画の段階判定、判断理由、特記すべき点(優れた点、特色ある点、改善を要する点)を判断いただきました。その際には、戦略性が高く意欲的な目標・計画、個性の伸長に向けた取組、現況分析結果、「データ分析集」等も参考にさせていただきました。

○本アンケートの構成

以下の質問では、達成状況評価を行うにあたって、達成状況報告書の内容が評価のために十分に記述されていたかや、達成状況報告書と参考資料に基づいて評価を適切に実施できたか等をお伺いします。

アンケートは下記6項目(35問)で構成されています。

- I 大学等から提出された達成状況報告書について
- II 評価方法・結果について
- III 大学等への質問事項およびヒアリングについて
- IV 参考資料について
- V 評価作業と事前研修について
- VI その他(自由記述)

○回答にあたって

ご回答にあたっては、主担当として担当された大学等がある方は、その大学等について、チーム主査、副担当、有識者の方は、チームで担当した大学等全般について、ご担当の役割に応じ、可能な範囲でご回答ください。

回答を開始する

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

I 大学等から提出された達成状況報告書について

(1) 主担当・副担当をされた大学等(主担当・副担当がない場合にはチームで担当された大学等全体)の達成状況報告書について、どのように思われましたか。以下のa.~h.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

	担当した大学等の報告書全体のうち、				
	2割未満の記述が当てはまった	2~4割の記述が当てはまった	4~6割の記述が当てはまった	6~8割の記述が当てはまった	8割以上の記述が当てはまった
a. 中期目標・計画の達成状況が明確に記述されていた	○	○	○	○	○
b. 計画実施により得られた成果が明確に示されていた	○	○	○	○	○
c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記述されていた	○	○	○	○	○
d. 大学等の教育研究活動の実態がわかるものであった	○	○	○	○	○
e. 優れた点や特色ある点がわかるものであった	○	○	○	○	○
f. 改善を要する点がわかるものであった	○	○	○	○	○
g. 一般社会にも理解しやすい報告書であった	○	○	○	○	○
h. 全体的に見て、達成状況報告書は評価を行うのに十分に書かれていた	○	○	○	○	○

(2) 達成状況報告書の記載についてお聞きします。

① 評価作業を実施する上で、以下のような達成状況報告書の記載方法は適切なものでしたか。a.~d.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

	適切でない	あまり適切でない	どちらともいえない	おおむね適切	適切
a. 大学等が中期計画ごとに達成状況を記載すること	○	○	○	○	○
b. 大学等が中期計画ごとに段階判定とその判断理由を記載すること	○	○	○	○	○
c. 大学等が優れた点・改善を要する点等を判断して記載すること	○	○	○	○	○
d. 個性の伸長に向けた取組に関わる計画を大学等が指定すること	○	○	○	○	○

② 達成状況の具体的な記述内容や、どのような根拠データ・資料を示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。a～cについて、5段階から当てはまるものを選択してください。

	全く思わない	思わない	どちらともいえない	思う	強く思う
a. 活動や成果の記載内容が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 記述の分量が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 根拠データ・資料の内容や記載方法が大学等ごとに多様であったため、解釈しづらかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 提出された達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4) 達成状況報告書の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

回答が終わりましたら、「2/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「2/6 ページへ進む」を押す前に「先頭へ戻る」を押すと、本ページ(1/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていたら、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

結果を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に現況分析結果を参照されましたか。

	参照した	参照すべき中期計画がなかった	参照することを認識していなかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する学部・研究科等の現況分析結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった	評価の参考になる情報としてある程度役に立った	評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った	評価の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 研究業績の水準判定結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当する研究業績説明書に記載することとし、評価者はその研究業績の水準判定結果を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に研究業績の水準判定結果を参照されましたか。

	参照した	参照すべき中期計画がなかった	参照することを認識していなかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する研究業績の水準判定結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった	評価の参考になる情報としてある程度役に立った	評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った	評価の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Ⅱ 評価方法・結果について

(1) 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価にあたっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することになっていました。

① 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価をされましたか。

	評価した	該当する中期計画がなかった	「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を認識していなかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② ①で評価したと回答された方にお聞きします。

評価を問題なくできましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	評価しづらかった	やや評価しづらかった	どちらともいえない	おおむね評価しやすかった	評価しやすかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

③ 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、今回のような方法で評価を行ったことで、良かった点や、評価がしづらかった点があれば、以下にご記入ください。

(2) 現況分析結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当の学部・研究科等の現況調査表に記載することとし、評価者はその学部・研究科等の現況分析

(4) 機関別認証評価結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書に記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができるとし、評価者は該当の資料を参照し、評価することとしていました。

① 評価の際に機関別認証評価結果を参照されましたか。

	参照した	参照すべき中期計画がなかった	参照することを認識していなかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。

該当する機関別認証評価結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった	評価の参考になる情報としてある程度役に立った	評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った	評価の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(5) 書面調査について

① 主担当・副担当をされた大学等がある方にお聞きします。書面調査段階において評価判断(段階判定や判断理由の作成)を確信をもって行うことができましたか。以下の5段階から選択してください。

	2割未満の中期計画のみに確信をもって判断を下すことができた	2～4割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた	4～6割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた	6～8割の中期計画に確信をもって判断を下すことができた	8割以上の中期計画に確信をもって判断を下すことができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② 書面調査の段階で、評価の判断に役立った点、また、戸惑った点などがあれば、以下にご記入ください。

- (6) 書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、最終的な評価結果を決定しました。最終的に決定された評価結果報告書の内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

担当した大学等の報告書全体のうち、					
	2割未満の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった	2～4割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった	4～6割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった	6～8割の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった	8割以上の中期計画の判定や記載内容が納得いくものとなった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (7) 中期計画の段階判定(「非常に優れている」や「良好」などの判定)の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は明確でしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

(参考)

中期計画の段階判定	
【中期計画】	判断の基準
非常に優れている	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が特筆すべきものである ※「特筆すべき成果」とは、以下のいずれかまたは複数に該当する場合を指す ① 教育研究の大きな質の向上 ② 国際的視点から判断して極めて高い教育研究水準の達成 ③ 個性の伸長への大きな寄与
良好	○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が優れている ○次の2つの条件を満たす場合 1. 計画が実施されている 2. 計画を実施した結果、得られた成果が相応である
おおむね良好【標準】	○次のいずれかに該当する場合 1. 計画が実施されているが、得られた成果が相応である 2. 計画は実施されているが、得られた成果が不十分である

	判断基準に迷った	判断基準にやや迷った	どちらともいえない	判断基準はおおむね明確であった	判断基準は明確であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (8) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください(ヒアリングについては次頁

8

でお聞きします)。

回答が завершиましたら、「3/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「3/6 ページへ進む」を押す前に「1/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(2/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

3/6 ページへ進む

1/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート

大学改革支援・学位授与機構

Ⅲ 大学等への確認事項の照会及びヒアリングについて

- (1) 今回の評価では、大学等にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行うという方法をとりました。これらの方法によって、評価作業を適切に行うことができましたか。5段階から当てはまるものを選択してください。

	適切でない	あまり適切でない	どちらともいえない	おおむね適切	適切
a. 大学等へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. ヒアリングにおける質疑応答による調査	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) ヒアリングは、大学によってはテレビ会議システムを用いて実施しました。テレビ会議システムを用いたヒアリングに参加された場合、ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	適切でない	あまり適切でない	どちらともいえない	おおむね適切	適切
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (3) 確認事項の照会やヒアリングについて、お気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

回答が завершиましたら、「4/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「4/6 ページへ進む」を押す前に「2/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(3/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

4/6 ページへ進む

2/6 ページへ戻る

10

Ⅳ 参考資料について

- (1) データ分析集の活用について

- ① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

	参照した	参照していない
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- ② ①で参照したと回答された方にお聞きします。評価にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、評価の根拠とはならなかった	評価の参考になる情報としてある程度役に立った	評価の参考になる情報として多くの場合に役に立った	評価の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) 今回のデータ分析集へのご意見や、次回(4年後)の評価であればよいと思うデータや参考資料があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「5/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「5/6 ページへ進む」を押す前に「3/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(4/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

5/6 ページへ進む

3/6 ページへ戻る

11

V 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

主担当・副担当の方にお伺いします。評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	作業しづらかった	<中間>	多少戸惑ったが作業はできた	<<中間>>	問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) ウェブサイト(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	作業しづらかった	<中間>	多少戸惑ったが作業はできた	<<中間>>	問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 作業時間等について

① 評価作業(会議等への出席時間を除き、書面調査シートへの入力や達成状況報告書の確認など)にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

a. 主担当の方にお伺いします。

主担当の大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね 時間
副担当の大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね 時間

b. 副担当(主担当大学等がない方)、チーム主査、有識者の方にお伺いします。

チームの大学等の書面調査等にかかった時間として、おおむね 時間

② チームごとの担当大学等の数は適切でしたか。多すぎて全ての大学等の情報の精査について負担が大きかったですか、それとも、少なすぎて他大学等の情報が無くて評価がしにくいなどの問題がありましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

12

(7) 評価作業の事務的側面や研修について、ご希望やお気づきの点があればご記入ください(例として事務局の対応や、模擬評価の実践研修の開催など)。

回答が終わりましたら、「6/6 ページへ進む」を押してください。

【注意】「6/6 ページへ進む」を押す前に「4/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(5/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

6/6 ページへ進む

4/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

	非常に多かった	若干多かった	適切であった	若干少なかった	非常に少なかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

③ 今回の評価作業で時間を多く費やした要因がもしあれば、以下にご記入ください。

(4) チームの大学等の構成について

担当チーム内の大学等の構成について、それぞれの教育研究分野や規模の違いなどにより、評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

(5) 評価者研修会について

評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらともいえない	おおむね理解できた	理解できた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(6) 評価作業マニュアルについて

評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。以下の5段階から当てはまるものを選択してください。

	理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらともいえない	おおむね理解できた	理解できた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

13

VI その他(自由記述)

(1) その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答が終わりましたら、「確認」を押してください。

【注意】「確認」を押す前に「5/6 ページへ戻る」を押すと、本ページ(6/6)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

[確 認]

5/6 ページへ戻る

中期目標の達成状況評価作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

現況分析部会 専門委員 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構長
福田 秀樹
〔公 印 省 略 〕

国立大学法人等の教育研究評価に係るアンケートについて（依頼）

平素より、当機構における評価事業に対し、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、現況分析に係る作業にご協力いただき、誠にありがとうございました。
当機構では、このたびの国立大学法人等の教育研究評価について、評価をご担当いただいた委員から、評価作業の課題やご意見をいただき、今後の評価の改善に向けて参考させていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきたいので、ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

なお、いただいたご回答は集計の上、当機構が発行する報告書にて、個人が特定されない形式で公表する予定であることを申し添えます。

記

1. 回答期限 平成29年3月6日（月）

2. 実施方法

① 下記URLのWEBアンケートシステムにアクセスして下さい。

https://www6.webcas.net/form/pub/niad/genkyo_qk86x1pse3

② メールアドレス（本件依頼の連絡を差上げたもの）、パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）を入力し、ログインの上、回答して下さい（全27問、所要時間20分程度）。

〔本件連絡先〕
独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課 国立大学評価室
現況分析第3係
川上、上、佐々木
Tel 042-307-7936、7937、7939
Fax 042-307-7993
E-mail genkyo3@niad.ac.jp

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
ご協力をお願い

機構では評価実施後に、評価者の皆様から、評価作業の課題や今後の評価の在り方についてご意見をいただき、改善に役立てていくこととしております。つきましては、アンケートにご回答くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、回答は個人名が特定されないよう処理いたします。また、本アンケートは、評価結果を確定し公表する前に実施しておりますが、ご回答の内容が評価結果に影響を与えることではないことを付言いたします。

メールアドレス（本件依頼の連絡を差上げたもの）・パスワード（依頼後に別メールにてお知らせしたもの）をご入力ください。

メールアドレス
(本件依頼の連絡を差上げたもの)

パスワード
(依頼後に別メールにてお知らせしたもの)

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

○今回実施した現況分析の概要

現況分析は、各大学の学部・研究科等から「現況調査表」を提出していただき、それを基に評価者（現況分析部会専門委員）に評価をしていただく方法としておりました。

学部・研究科等は、現況調査表に教育・研究の目的と特徴を述べるとともに、「想定される関係者とその期待」を明記しました。評価者には、学部・研究科等の教育研究活動や成果が関係者の期待を上回る水準にあるか等を判断する評価をしていただきました。現況調査表に記述する内容については、機構にて「分析項目」と「観点」を事前に定めておりましたが、その中に具体的に記述する事項については大学に委ねていました。また、記述内容の「参考例」や、定量的なデータベースによる「データ分析集」を、大学と評価者の双方に提供して参考資料としていただきました。

○本アンケートの構成

以下の質問では、現況分析を行うにあたって、現況調査表の内容が評価のために十分に記述されていたかや、現況調査表と参考資料に基づいて評価を適切に実施できたか等をおきします。

アンケートは下記5項目（全27問）で構成されています。所要時間の目安は20分程度です。

- I 大学から提出された現況調査表について
- II 評価方法について
- III 参考資料について
- IV 評価作業と事前研修について
- V その他（自由記述）

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

I 大学から提出された現況調査表について

(1) 主・副担当をされた現況調査表について（部会長・副部会長は確認された現況調査表全体について）、どのように思われましたか。以下のa.~f.について、5段階から当てはまるものを選択してください。

	2割未満の現況調査表が当てはまった	2~4割の現況調査表が当てはまった	4~6割の現況調査表が当てはまった	6~8割の現況調査表が当てはまった	8割以上の現況調査表が当てはまった
a. 学部・研究科等の目的が明確に記されていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 「想定する関係者の期待」が明確に記されていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
c. 評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
d. 教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
e. 教育・研究活動による成果が具体的に説明されていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
f. 全体的に見て、現況調査表は評価を行うのに十分に書かれていた	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) 現況調査表は、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかやどのような根拠データ・資料を示すかは、各大学に委ねています。

① このような方法により、各学部・研究科等の個性的な取組が把握できたと思われませんか。

	全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強く思う
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

② このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

	全く思わない	思わない	どちらとも言えない	思う	強く思う
a. 活動や成果の記載内容が大学ごとに多様であったために、評価がしづらかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
b. 根拠データ・資料の記述内容や記載様式が大学ごとに多様であったため、解釈しづらかった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 提出された現況調査票のページ数（分量）は、評価を実施する上で適切でしたか。以下の5段階から選択ください。

II 評価方法について

- (1) 主・副担当をされた学部・研究科等について(部会長・副部会長は全体について)、書面調査段階において評価判断を確信をもって行うことができましたか。教育水準と研究水準についてそれぞれ以下の5段階から選択ください。

	2割未満の現況調査表のみに確信をもって判断を下すことができた	2~4割の現況調査表に確信をもって判断を下すことができた	4~6割の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた	6~8割の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた	8割以上の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた
教育水準	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究水準	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (2) 評価者による書面調査の後に、機構内の2回の部会において評価結果(段階判定を含む)の調整を行いました。調整を経て決定された評価結果は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

	納得のいくものではなかった	あまり納得のいくものではなかった	どちらともいえない	おおむね納得のいくものであった	納得のいくものであった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (3) 分析項目ごとに評価を行う難しさは異なりましたか。以下の5段階から選択ください。

	難しかった	やや難しかった	どちらとも言えない	やや容易だった	容易だった
I 教育活動の状況(教育実施体制、教育内容・方法)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
II 教育成果の状況(学業の成果、進路・就職の状況)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
教育の質の向上度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
I 研究活動の状況(研究活動の状況、共同利用・共同研究の実施状況)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
II 研究成果の状況	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究の質の向上度	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (4) - ① 「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績(専任教員数の

4

5

	少ない	やや少ない	適切	やや多い	多い
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (4) 現況調査表の形式や記載されていた内容について良かった点、悪かった点があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「2 / 5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「2 / 5 ページへ進む」を押す前に「先頭へ戻る」を押すと、本ページ(1 / 5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

20%程度を目安の「研究業績水準判定結果一覧表」(SS、S、S未満の数・割合やSSとした判断根拠)を評価者に提供しました。研究業績水準判定結果は、「研究成果の状況」を判定する資料として参考になるものでしたか。以下の5段階から選択ください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、判断の根拠とはならなかった	判断の参考になる程度役に立った	判断の参考になる情報として多くの場合に役に立った	判断の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (4) - ② 参考にならなかった理由があれば、当てはまる選択肢全てにチェックを付けてください(複数選択可)。

- a. 専任教員数の20%程度の研究業績では全体状況がわからないから
 b. SS、S、S未満と判断された基準が不明瞭であったから
 c. 他大学の学部・研究科等の判定結果との比較ができなかったから
 d. 大学によって業績数の提出状況が異なるから

e. その他(自由記述)

- (5) 評価は、大学が記載した「想定する関係者の期待」に基づいて判断を行っていただきました。このような判断基準で評価を問題なくできましたか。以下の5段階から選択ください。

	評価がしづらかった	評価がややしづらかった	どちらともいえない	おおむね問題なく評価ができた	問題なく評価ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (6) 段階判定(「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定)の基準は明確でしたか。以下の5段階から選択ください。

6

参考 - 45

(参考)

判断を示す記述	判断の基準
期待される水準を大きく上回る(分析項目「I・II」下欄)	「期待される水準を上回る」と判断された分析項目のうち、学部・研究科等の目的(分析項目「I・II」下欄)に照らして、取組や活動(或いは成果)が期待や成果に明らかに判断できる場合。
期待される水準を上回る	学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待を上回ると判断される場合。
期待される水準にある【標準】	学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待に当てはまると判断される場合。
期待される水準を下回る	学部・研究科等の目的に照らして、取組・活動や成果の状況が期待であり、想定する関係者の期待に当てはまると判断される場合。

	判断基準に迷った	判断基準にやや迷った	どちらとも言えない	判断基準はおおむね明確であった	判断基準は明確であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (7) 評価がやりやすかった点、やりにくかった点があれば、以下にご記入ください。

回答が завершиましたら、「3 / 5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「3 / 5 ページへ進む」を押す前に「1 / 5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(2 / 5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

7

Ⅲ 参考資料について

(1)－① 人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育学系については、現況調査表に記載されることが期待される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を研修会にて配付しました。評価作業の前に「参考例」は確認されましたか。

	確認した	確認していない
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(1)－② 上の問いで「確認した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

- a. 事前に優れた取組や成果のイメージがあった
- b. 評価判断をする際の参考になった
- c. 例示がもっと多種類であると良いと感じた
- d. 例示の数を少なくすると良いと感じた
- e. 例示をもっと具体的にすると良いと感じた
- f. 担当の学系にふさわしい例示が少ないと感じた
- g. 実際の現況調査表には参考例を踏まえた記述がなされていた

(2)－① 今回の評価では「データ分析集」として、学部・研究科等に関する定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

	参照した	参照していない
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2)－② 上の問いで「参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から選択ください。

	参考になる情報ではなかった	参考になる情報ではあったが、判定の根拠とはしなかった	判定の参考になる情報としてある程度役に立った	判定の参考になる情報として多くの場合に役に立った	判定の際に参考になる重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

8

(2)－③ ご担当の学系の教育・研究活動や成果を評価する際に、共通して示されていると望ましいデータがありましたら、お教えください(ない場合は記載不要です)。

(3) 今回の参考例やデータ分析集へのご意見や、次回(4年後)の現況分析であればよいと思う参考資料があれば、以下にご記入下さい。

回答が終わりましたら、「4/5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「4/5 ページへ進む」を押す前に「2/5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(3/5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

4/5 ページへ進む

2/5 ページへ戻る

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート

大学改革支援・学位授与機構

9

Ⅳ 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

	作業しづらかった	<中間>	多少戸惑ったが作業はできた	<<中間>>	問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) ウェブ(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

	作業しづらかった	<中間>	多少戸惑ったが作業はできた	<<中間>>	問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3)－① 書面調査にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

おおむね 時間

(3)－② 評価担当の現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)は多すぎましたか、それとも、少なすぎて他大学の情報が無くして評価がしにくい等の問題がありましたか。当てはまるものを以下の5段階から選択ください。

	分量が非常に多かった	若干多かった	適切な分量であった	若干少なかった	非常に少なかった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3)－③ 今回の評価作業で時間を多く費やした要因がもしあればご記入ください。

(4) 評価者研修会について

評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

	理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらとも言えない	概ね理解できた	理解できた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(5) 評価作業マニュアルについて

評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

	理解できなかった	一部しか理解できなかった	どちらとも言えない	概ね理解できた	理解できた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(6) 評価作業の事務的側面や研修について、お気づきの点があればご記入ください。

回答が終わりましたら、「5/5 ページへ進む」を押してください。

【注意】「5/5 ページへ進む」を押す前に「3/5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(4/5)に回答した内容は保存されません。一度進んだのちに戻っていただければ、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

5/5 ページへ進む

3/5 ページへ戻る

V その他

(1) その他、全体的にお気づきの課題点や良かった点があればご記入ください。

設問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答が завершиましたら、「確認」を押してください。

【注意】「確認」を押す前に「4/5 ページへ戻る」を押すと、本ページ(5/5)に回答した内容は保存されません。
一度進んだのちに戻っていただけは、回答内容を保存した上で、以前のページを確認できます。

[確 認] 4 / 5 ページへ戻る

学部・研究科等の現況分析作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

研究業績水準判定組織 専門委員 各位

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
福田 秀樹
[公 印 省 略]

国立大学法人等の教育研究評価に係るアンケートについて (依頼)

平素より、当機構における評価事業に対し、格別のご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびは、研究業績水準の判定作業にご協力いただき、誠にありがとうございました。

当機構では、このたびの国立大学法人等の教育研究評価について、評価をご担当いただいた委員から、評価作業の課題や意見をいただき、今後の評価の改善に向けて参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、下記のとおりアンケートを実施させていただきたいので、ご多忙のところお手数をおかけしますが、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、いただいたご回答は集計の上、当機構が発行する報告書にて、個人が特定されない形式で公表する予定であることを申し添えます。

記

1. 回答期限 平成28年8月1日 (月)

2. 実施方法

① 判定作業時に使用したオンラインストレージにログイン

<https://asp.gigacc.com/user/>

(ID、パスワードについては、平成28年4月27日付のメールにより

お送りしております。ご不明の場合は、下記の連絡先までお問い合わせください。)

② 『共通』ディレクトリの「国立大学法人等の教育研究評価に係るWEBアンケートURL.pdf」に記載のURLから回答 (全18問、所要時間15分程度)

[本件連絡先]

独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構
評価事業部 評価企画課 国立大学評価室
現況分析第4係
菊池 (きくち)、周東 (しゅうとう)
Tel 042-307-7942 / 7944
Fax 042-307-7993
E-mail gvoseki7@niad.ac.jp

研究業績水準判定作業に関するアンケート ご協力をお願い

機構では評価実施後に評価方法の妥当性を検証し、今後の改善に役立てていくこととして
おります。以下のアンケートにご協力くださいますよう、お願い申し上げます。



お名前 (入力必須)

アンケートに回答する

研究業績水準判定作業に関するアンケート
大学改革支援・学位授与機構

1. 大学から提出された研究業績について

(1) 「学術的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。以下の5段階から選択ください。

	1:非常に少なかった (~2割未満)	2:少なかった (2~4割未満)	3:ある程度あった (4~6割未満)	4:多かった (6~8割未満)	5:非常に多かった (8割~)
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) 「社会・経済・文化的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。以下の5段階から選択ください。

	1:非常に少なかった (~2割未満)	2:少なかった (2~4割未満)	3:ある程度あった (4~6割未満)	4:多かった (6~8割未満)	5:非常に多かった (8割~)
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

2. 参考資料について

(1)―① 6月中旬に配付しました、各論文の被引用数等のデータ(研究業績説明書【被引用数データ付き】)を判定の際に参照されましたか。

	1:参照した	2:参照していない	3:担当細目には配付がなかった(複数細目担当の場合は、全ての細目でなしの場合)
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(1)―② 上の問いで「1:参照した」と回答した場合、被引用数データはどの程度参考になりましたか。

以下の5段階から選択ください。

	1: 判定の参考にはしなかった	2: 判定の参考として若干利用することがあった	3: 根拠の一つとして随時参考にした	4: 重要な根拠の一つとして参考にした	5: 最も重要な根拠として参考にした
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2)―① 6月初旬に配付しました、「被引用数の閾値リスト」を判定の際に参照されましたか。

	1: 参照した	2: 参照していない
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2)―② 上の問いで「1: 参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。以下の5段階から選択ください。

	1: 参考になる情報ではなかった	2: 参考になる情報ではあったが、判定の根拠とはしなかった	3: 判定の参考になる情報としてある程度役に立った	4: 判定の参考になる情報として多くの場合に役に立った	5: 判定の際に参考に行ける重要な情報であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3)―① 評価者研修会にて「参考例」として卓越した研究業績の根拠データの分野ごとの例を配付しました。判定作業の前に参照されましたか。

	1: 参照した	2: 参照していない
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3)―② 上の問いで「1: 参照した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

- 事前に根拠データのイメージがついた。
- 多様な根拠データがありうることが理解できた。
- 例示がもっと多種類であると良いと感じた。
- 例示をもっと限定すると良いと感じた。
- 自分の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。
- 根拠データ例ごとにSS、S、S未満の判定の基準の提示が必要と感じた。

(4) ご担当の細目において判定をする際に、大学からある程度共通して示されていると望ましい根拠

3

(4) 今回の研究業績判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらかったですか。あった場合は、具体的な内容もご記入ください。

	1: なかった	2: あった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

→ 「2: あった」場合、具体的に記入ください。



4. 作業について

(1) 作業時間について

研究業績判定にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。(半角数字)
 おおむね 時間

(2) 判定した業績数に関するご認識について、当てはまるものを以下の5段階から選択ください。

	1: 分量が非常に多かった	2: <中間>	3: 若干多いが、作業できない分量ではなかった	4: <中間>	5: 問題なく作業できる分量であった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) ウェブ(オンラインストレージ)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(オンラインストレージ)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

	1: 作業しづらかった	2: <中間>	3: 多少戸惑ったが作業はできた	4: <中間>	5: 問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

5

データがもしありましたら、お教えください(ない場合は記載不要です)。



3. 判定について

(1) ご担当の細目の専門領域の範囲を超える(担当細目の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。あった場合は、およその割合もお答えください。

	1: なかった	2: あった
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

→ 「2: あった」場合、およその割合(半角数字)

およそ 割

(2) 学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

	1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた	2: 2~4割の業績のみに確信をもって判断を下すことができた	3: 4~6割の業績で確信をもって判断を下すことができた	4: 6~8割の業績で確信をもって判断を下すことができた	5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか? 判定された業績の中で確信をもって判定を下すことができた割合を以下の5段階から選択ください。

	1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた	2: 2~4割の業績のみに確信をもって判断を下すことができた	3: 4~6割の業績で確信をもって判断を下すことができた	4: 6~8割の業績で確信をもって判断を下すことができた	5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

4

(4) Excelを用いた作業について

研究業績の判定はマイクロソフト社のExcelのファイルを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。以下の5段階から選択ください。

	1: 作業しづらかった	2: <中間>	3: 多少戸惑ったが作業はできた	4: <中間>	5: 問題なく作業ができた
1つ選択	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>



5. 以下、判定作業へのご意見や、判定作業で難しかったこと、参考資料のあり方、そのほかコメントがございましたら、ご自由にお書きください(空欄でも結構です)。

自由記述欄

回答が終わりましたら「確認」ボタンを押してください。

↓

2 教育研究評価に係るアンケート結果

教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 法人向け

n= 90

I 貴大学等における「達成状況報告書」の作成作業について

問1 達成状況報告書の形式や作成方法について

(1) 達成状況報告書を作成された際、今回の達成状況報告書の形式や作成方法は適切と思われましたか。

【1: 適切でなかった～5: 適切であった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	中期計画ごとに達成状況を記載すること。	0	0	2	50	38	0
		0.0%	0.0%	2.2%	55.6%	42.2%	
b	中期計画ごとに大学等が段階判定とその判断理由を記載すること。	0	1	3	50	36	0
		0.0%	1.1%	3.3%	55.6%	40.0%	
c	優れた点・改善を要する点等を大学等が判断して記載すること。	0	4	9	51	26	0
		0.0%	4.4%	10.0%	56.7%	28.9%	
d	個性の伸長に向けた取組に関連する中期計画を大学等が指定すること。	0	6	22	39	23	0
		0.0%	6.7%	24.4%	43.3%	25.6%	
e	中期計画に関連する学部・研究科等の「現況調査表」の分析項目・観点名等を達成状況報告書に記載すること。	1	16	34	29	10	0
		1.1%	17.8%	37.8%	32.2%	11.1%	
f	中期計画に関連する「研究業績説明書」の研究業績番号等を達成状況報告書に記載すること。	1	15	34	29	11	0
		1.1%	16.7%	37.8%	32.2%	12.2%	

(2) 今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」は、計画どおり実施できていなくとも、プロセスや内容等を考慮し、判定することとしていました。「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、自己評価を行いやすかったですか。

【1: 行いづらかった～5: 行いやすかった】

【「戦略性が高く意欲的な目標・計画」がある法人 (n=63)】

	1	2	3	4	5	無回答
	0	3	24	30	6	0
	0.0%	4.8%	38.1%	47.6%	9.5%	

(3) 達成状況報告書を作成された際、自己評価を行いにくい点がありましたか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	中期目標・計画の中に達成状況を自己評価しづらい点があった。	6	39	23	21	1	0
		6.7%	43.3%	25.6%	23.3%	1.1%	
b	大学等として重要な事項が中期目標・計画とは別に実施されており、現在の活動実態と適合しないところがあった。	9	38	29	12	2	0
		10.0%	42.2%	32.2%	13.3%	2.2%	
c	自己評価における段階判定の基準が理解しづらかった。	11	33	19	25	2	0
		12.2%	36.7%	21.1%	27.8%	2.2%	

(4) 達成状況報告書の具体的な記載内容や、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	活動や成果の記載内容に迷うことがあった。	2	34	23	30	1	0
		2.2%	37.8%	25.6%	33.3%	1.1%	
b	どの程度詳しく記載すべきか迷うことがあった。	1	15	15	50	9	0
		1.1%	16.7%	16.7%	55.6%	10.0%	
c	根拠となる資料・データの内容や記載方法に迷うことがあった。	2	22	20	42	4	0
		2.2%	24.4%	22.2%	46.7%	4.4%	

(5) 達成状況報告書の字数の上限は、達成状況報告書を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

1	2	3	4	5	無回答
18	32	36	4	0	0
20.0%	35.6%	40.0%	4.4%	0.0%	

問2 参考資料「データ分析集」の活用について

今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。

(1) 貴大学等では達成状況報告書を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった】

1	2	無回答
63	27	0
70.0%	30.0%	

(2) 上の問いで「確認した」と回答された場合、達成状況報告書を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=63)

【1: 参考になる情報ではなかった～5: 根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
4	35	24	0	0	0
6.3%	55.6%	38.1%	0.0%	0.0%	

(3) (1)の問いで「確認した」と回答された場合、他大学等のデータや全大学等の傾向等の情報を参照されましたか。(n=63)

【1: 他大学等のデータは確認しなかった～5: 他大学等のデータは参考になる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
11	31	21	0	0	0
17.5%	49.2%	33.3%	0.0%	0.0%	

問3 貴大学等から提出した達成状況報告書について

提出した達成状況報告書について、どのような感想をお持ちですか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	中期目標・計画の達成状況を明確に記載することができた。	0	0	16	67	7	0
		0.0%	0.0%	17.8%	74.4%	7.8%	
b	計画実施により得られた成果を明確に示すことができた。	0	3	25	60	2	0
		0.0%	3.3%	27.8%	66.7%	2.2%	
c	評価するのに必要な根拠・データを達成状況報告書に記載することができた。	0	3	30	53	4	0
		0.0%	3.3%	33.3%	58.9%	4.4%	
d	大学等の教育研究活動の実態をわかりやすく示すことができた。	0	2	32	52	4	0
		0.0%	2.2%	35.6%	57.8%	4.4%	
e	優れた点や特色ある点をわかりやすく示すことができた。	0	1	25	57	7	0
		0.0%	1.1%	27.8%	63.3%	7.8%	
f	改善を要する点をわかりやすく示すことができた。	10	5	37	32	3	3
		11.5%	5.7%	42.5%	36.8%	3.4%	
g	一般社会の人にも理解しやすい達成状況報告書を作成することができた。	0	6	45	37	2	0
		0.0%	6.7%	50.0%	41.1%	2.2%	
h	全体として、十分に自己評価を行うことができた。	0	1	21	63	5	0
		0.0%	1.1%	23.3%	70.0%	5.6%	

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会・ヒアリングについて

(1) 今回の評価では、機構から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。

【1:適切でなかった～5:適切であった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	0	5	11	67	7	0
		0.0%	5.6%	12.2%	74.4%	7.8%	
b	確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	0	2	11	68	9	0
		0.0%	2.2%	12.2%	75.6%	10.0%	
c	ヒアリングの実施方法(時間や進行)	1	5	15	58	11	0
		1.1%	5.6%	16.7%	64.4%	12.2%	
d	ヒアリングにおける質疑応答の内容	1	10	23	48	8	0
		1.1%	11.1%	25.6%	53.3%	8.9%	

(2) テレビ会議システムを用いたヒアリングを実施した大学等にお聞きします。ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。(n=36)

【1:できなかった～5:できた】

	1	2	3	4	5	無回答
	2	8	4	20	2	0
	5.6%	22.2%	11.1%	55.6%	5.6%	

問3 評価結果(評価報告書)について

平成29年6月に公表しました貴大学等の評価結果の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	貴大学等の中期目標・計画を踏まえていた。	0	0	15	60	15	0
		0.0%	0.0%	16.7%	66.7%	16.7%	
b	貴大学等の中期目標・計画の達成状況を反映していた。	0	3	25	52	10	0
		0.0%	3.3%	27.8%	57.8%	11.1%	
c	貴大学等において中期目標・計画により得られた教育研究上の成果を反映していた。	0	4	27	49	10	0
		0.0%	4.4%	30.0%	54.4%	11.1%	
d	段階判定結果は納得のいくものであった。	2	14	31	36	7	0
		2.2%	15.6%	34.4%	40.0%	7.8%	
e	判定結果の根拠は明確であった。	3	13	36	32	6	0
		3.3%	14.4%	40.0%	35.6%	6.7%	
f	総じて、貴大学等の中期目標・計画の達成状況が適正に評価された。	1	8	32	40	9	0
		1.1%	8.9%	35.6%	44.4%	10.0%	

問4 第1期中期目標期間評価からの評価報告書構成の変更点について

第2期中期目標期間における評価では、評価報告書の構成を以下のように変更しました。これらの変更について、適切と思われましたか。

【1:適切でない～5:適切である】

		1	2	3	4	5	無回答
a	「特記すべき点」欄の「優れた点」、「特色ある点」、「改善を要する点」のうち主なものを「主な特記すべき点」欄に記載すること。	0	1	17	56	16	0
		0.0%	1.1%	18.9%	62.2%	17.8%	
b	現況分析結果の「注目すべき質の向上」等の事項を関連する中項目の「優れた点」として記載すること。	0	0	22	53	14	1
		0.0%	0.0%	24.7%	59.6%	15.7%	
c	中期計画ごとの「判定結果一覧表」を記載すること。	0	0	8	42	40	0
		0.0%	0.0%	8.9%	46.7%	44.4%	

Ⅲ 評価による貴大学等での効果・影響について

問1 評価の効果について

中期目標・計画に基づいて評価を行うことによって、貴大学等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われるか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	貴大学等の中期目標・計画に基づく運営サイクルが確立できた。	1	4	12	62	11	0
		1.1%	4.4%	13.3%	68.9%	12.2%	
b	教育研究の課題が把握できた。	1	1	16	63	9	0
		1.1%	1.1%	17.8%	70.0%	10.0%	
c	全体的にみて、教育活動が改善した。	0	1	42	40	6	1
		0.0%	1.1%	47.2%	44.9%	6.7%	
d	全体的にみて、研究活動が改善した。	0	2	46	36	6	0
		0.0%	2.2%	51.1%	40.0%	6.7%	
e	貴大学等の個性の伸長を促進できた。	0	4	40	38	8	0
		0.0%	4.4%	44.4%	42.2%	8.9%	
f	教職員の間で大学等の目標や方向性が共有された。	0	8	35	44	3	0
		0.0%	8.9%	38.9%	48.9%	3.3%	
g	執行部のリーダーシップが高まった。	2	3	33	46	6	0
		2.2%	3.3%	36.7%	51.1%	6.7%	
h	社会に対し貴大学等の活動を説明することの重要さが学内に浸透した。	2	13	37	34	4	0
		2.2%	14.4%	41.1%	37.8%	4.4%	
i	社会への説明責任が果たされた。	0	3	31	50	6	0
		0.0%	3.3%	34.4%	55.6%	6.7%	
j	大学等間の競争意識が生まれた。	6	16	39	26	3	0
		6.7%	17.8%	43.3%	28.9%	3.3%	

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

他大学等の中期目標の達成状況に関する評価結果の内容の分析を行いましたか。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1:分析した 2:分析しなかった】

1	2	無回答
61	29	0
67.8%	32.2%	

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=61)

【1:役に立たなかった～5:役に立った】

1	2	3	4	5	無回答
0	2	20	34	5	0
0.0%	3.3%	32.8%	55.7%	8.2%	

Ⅳ 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 達成状況報告書の作成を開始した時期(各中期目標・計画の実施状況の記載を開始した時期)をご回答ください。

～平成26年3月	1	1.1%
4月	0	0.0%
5月	0	0.0%
6月	1	1.1%
7月	1	1.1%
8月	0	0.0%
9月	2	2.2%
10月	1	1.1%
11月	0	0.0%
12月	2	2.2%
平成27年1月	0	0.0%
2月	0	0.0%
3月	2	2.2%
4月	4	4.4%
5月	2	2.2%
6月	4	4.4%
7月	8	8.9%
8月	8	8.9%
9月	10	11.1%
10月	15	16.7%
11月	3	3.3%
12月	8	8.9%
平成28年1月	5	5.6%
2月	4	4.4%
3月	5	5.6%
4月	4	4.4%
無回答	0	

(2) 上の問いで回答された作成開始時期以降、達成状況報告書の作成作業を行った体制についてお聞きします。

②評価を主な職務として担当した教員・職員のうち、達成状況報告書の作成(現況調査表は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、達成状況報告書作成開始以降から提出までの職務の半分が報告書作成に関する業務であれば0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

		作成担当者として記載あり	記載なし
教員等	理事・副学長、評価室等の長	76	14
		84.4%	15.6%
	上記以外の教員	49	41
		54.4%	45.6%
職員	部長、課長級	73	17
		81.1%	18.9%
	課長補佐、係長級	87	3
		96.7%	3.3%
	主任、係員級	78	12
	86.7%	13.3%	
	事務補佐員等	18	72
		20.0%	80.0%
その他		4	86
		4.4%	95.6%

(3) 達成状況報告書の作成において、大学等内でデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IR、URAなど)が関与しましたか。関与していた場合、中期目標の教育・研究・その他の目標ごとに、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

	関与あり	関与なし
教育に関する目標	41	49
	45.6%	54.4%
研究に関する目標	49	41
	54.4%	45.6%
その他の目標(社会連携・国際など)	32	58
	35.6%	64.4%

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
～5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

	1	2	3	4	5
教育に関する目標	21	12	7	7	6
	39.6%	22.6%	13.2%	13.2%	11.3%
研究に関する目標	22	20	8	6	6
	35.5%	32.3%	12.9%	9.7%	9.7%
その他の目標(社会連携・国際など)	18	18	3	3	6
	37.5%	37.5%	6.3%	6.3%	12.5%

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4) 今回の達成状況報告書の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かった～5:少なかった】

1	2	3	4	5	無回答
10	26	28	21	5	0
11.1%	28.9%	31.1%	23.3%	5.6%	

(5) 学部・研究科等から本部に提出された教育・研究の現況調査表(研究業績説明書含む)について、本部において各現況調査表の記載内容の精査や調整を行いましたか。

【1:ほとんど行わなかった(全ての記載内容の2割未満)～5:十分に行った(8割以上)】

1	2	3	4	5	無回答
1	4	14	21	48	2
1.1%	4.5%	15.9%	23.9%	54.5%	

(6) 達成状況報告書の作成にかかる作業負担、あるいはその効率化の要因についてお聞きます。

①作業を効率的に実施できた要因について、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。

		回答あり	回答なし
a	大学等内に目標・計画の進捗管理のためのデータベースがあることで、効率的に作業できた。	32	58
		35.6%	64.4%
b	これまでの年度目標・計画の進捗状況を積み重ねることで、効率的に作業できた。	71	19
		78.9%	21.1%
c	目標・計画ごとに責任者が指定されていることで、効率的に作業できた。	54	36
		60.0%	40.0%

問2 機構による説明会(平成27年7月実施)について

達成状況報告書の作成方法や評価全体の進め方については、機構が実施した説明会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた 0:参加していない】

1	2	3	4	5	0
0	5	18	58	8	1
0.0%	5.6%	20.0%	64.4%	8.9%	1.1%
					無回答
					0

問3 実績報告書作成要領について

達成状況報告書の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
0	2	9	67	12	0
0.0%	2.2%	10.0%	74.4%	13.3%	

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、評価実施の目的として、どのようなことを重視すべきと思われますか。

【1:全くそう思わない～5:強く思う】

	1	2	3	4	5	無回答
a	0	0	10	63	17	0
	0.0%	0.0%	11.1%	70.0%	18.9%	
b	1	4	32	42	8	3
	1.1%	4.6%	36.8%	48.3%	9.2%	
c	0	4	38	45	3	0
	0.0%	4.4%	42.2%	50.0%	3.3%	
d	0	0	25	56	9	0
	0.0%	0.0%	27.8%	62.2%	10.0%	
e	1	1	9	60	19	0
	1.1%	1.1%	10.0%	66.7%	21.1%	
f	1	3	36	43	7	0
	1.1%	3.3%	40.0%	47.8%	7.8%	
g	1	12	54	19	3	1
	1.1%	13.5%	60.7%	21.3%	3.4%	
h	3	12	57	14	3	1
	3.4%	13.5%	64.0%	15.7%	3.4%	
i	0	8	45	33	3	1
	0.0%	9.0%	50.6%	37.1%	3.4%	
j	5	24	49	11	0	1
	5.6%	27.0%	55.1%	12.4%	0.0%	
k	0	1	8	36	45	0
	0.0%	1.1%	8.9%	40.0%	50.0%	

学部・研究科等の教育の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

n= 821

I 貴学部・研究科等における「教育に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の形式や作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えているか、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。

【1：作成しづらかった～5：問題なく作成できた】

1	2	3	4	5	無回答
50	198	175	355	43	0
6.1%	24.1%	21.3%	43.2%	5.2%	

(2) 現況調査表では、分析項目「I 教育活動の状況」、「II 教育成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、記載は容易でしたか、難しかったですか。

【1：難しかった～5：容易だった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	「I 教育活動の状況」 教育実施体制 教育内容・方法	19	108	293	324	76	1
		2.3%	13.2%	35.7%	39.5%	9.3%	
b	「II 教育成果の状況」 学業の成果 進路・就職の状況	35	194	303	242	46	1
		4.3%	23.7%	37.0%	29.5%	5.6%	
c	「質の向上度」	85	311	287	112	23	3
		10.4%	38.0%	35.1%	13.7%	2.8%	

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。

①このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思われませんか。

【1：全くそう思わない～5：強くそう思う】

1	2	3	4	5	無回答
6	48	232	483	52	0
0.7%	5.8%	28.3%	58.8%	6.3%	

②このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1：全くそう思わない～5：強くそう思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	12	180	185	386	58	0
		1.5%	21.9%	22.5%	47.0%	7.1%	
b	根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	8	166	173	395	79	0
		1.0%	20.2%	21.1%	48.1%	9.6%	

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。

【1：わかりづらかった～5：明確であった】

1	2	3	4	5	無回答
66	196	266	280	13	0
8.0%	23.9%	32.4%	34.1%	1.6%	

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

1	2	3	4	5	無回答
68	233	467	42	5	6
8.3%	28.6%	57.3%	5.2%	0.6%	

問2 参考資料の活用について

(1) 学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの教育活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

① 現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった(該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む)】

1	2	無回答
531	286	4
65.0%	35.0%	

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=531)

a	事前に記載する取組や成果のイメージがついた。	434 81.7%
b	現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。	339 63.8%
c	観点ごとの段階判定をする際の参考になった。	220 41.4%
d	例示の種類がより多ければ良いと感じた。	235 44.3%
e	例示の数を少なくすると良いと感じた。	9 1.7%
f	例示をより具体的にすると良いと感じた。	269 50.7%
g	自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	161 30.3%

(2) 「データ分析集」について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1: 確認した 2: 確認しなかった】

1	2	無回答
376	407	38
48.0%	52.0%	

② 上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=376)

【1: 参考になる情報ではなかった～5: 根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
12	107	218	28	9	2
3.2%	28.6%	58.3%	7.5%	2.4%	

問3 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	1	11	63	536	210	0
		0.1%	1.3%	7.7%	65.3%	25.6%	
b	「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。	6	59	278	404	74	0
		0.7%	7.2%	33.9%	49.2%	9.0%	
c	教育活動による成果を具体的に説明することができた。	1	27	140	529	124	0
		0.1%	3.3%	17.1%	64.4%	15.1%	
d	教育活動の優れている点を具体的に説明することができた。	1	15	123	523	159	0
		0.1%	1.8%	15.0%	63.7%	19.4%	
e	評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。	3	29	212	492	85	0
		0.4%	3.5%	25.8%	59.9%	10.4%	
f	一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。	14	72	428	273	34	0
		1.7%	8.8%	52.1%	33.3%	4.1%	
g	全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。	4	28	205	517	67	0
		0.5%	3.4%	25.0%	63.0%	8.2%	

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感じますか。

【確認事項・資料提出依頼のあった学部・研究科等のみ(n=255)】

【1: 適切でなかった～5: 適切であった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	3	20	91	112	25	4
		1.2%	8.0%	36.3%	44.6%	10.0%	
b	確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	2	12	93	121	23	4
		0.8%	4.8%	37.1%	48.2%	9.2%	

問2 評価結果(現況分析結果)について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	1	39	123	549	108	1
		0.1%	4.8%	15.0%	67.0%	13.2%	
b	貴学部・研究科等の教育の実態を反映していた。	2	48	124	545	101	1
		0.2%	5.9%	15.1%	66.5%	12.3%	
c	各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。	4	56	184	469	107	1
		0.5%	6.8%	22.4%	57.2%	13.0%	
d	観点の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。	4	35	208	490	83	1
		0.5%	4.3%	25.4%	59.8%	10.1%	
e	質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。	10	42	246	417	105	1
		1.2%	5.1%	30.0%	50.9%	12.8%	
f	質の向上度の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。	5	26	261	449	79	1
		0.6%	3.2%	31.8%	54.8%	9.6%	
g	全体的に、適正に評価された。	4	34	165	504	113	1
		0.5%	4.1%	20.1%	61.5%	13.8%	

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の教育活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、教育の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった(あるいは今後に顕在化する)と思われますか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	教育・学習の成果を重視するようになった。	14	39	216	460	90	2
		1.7%	4.8%	26.4%	56.2%	11.0%	
b	教育活動の質保証体制を構築した。	19	44	318	379	56	5
		2.3%	5.4%	39.0%	46.4%	6.9%	
c	教育内容の体系性を意識するようになった。	15	43	273	394	92	4
		1.8%	5.3%	33.4%	48.2%	11.3%	
d	特色ある取り組みを促進した。	14	27	245	428	105	2
		1.7%	3.3%	29.9%	52.3%	12.8%	
e	学生のニーズを踏まえた教育を行うようになった。	13	39	341	376	47	5
		1.6%	4.8%	41.8%	46.1%	5.8%	
f	教育活動の今後の課題を把握できた。	20	37	241	414	107	2
		2.4%	4.5%	29.4%	50.5%	13.1%	
g	教職員の間で教育活動についての組織的な方向性が共有された。	18	97	425	255	23	3
		2.2%	11.9%	52.0%	31.2%	2.8%	
h	学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。	37	115	388	245	33	3
		4.5%	14.1%	47.4%	30.0%	4.0%	
i	社会に対し大学等の教育活動を説明することの重要性が浸透した。	25	70	307	379	38	2
		3.1%	8.5%	37.5%	46.3%	4.6%	
j	学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	88	225	402	93	7	6
		10.8%	27.6%	49.3%	11.4%	0.9%	
k	大学等間の競争意識が生まれた。	72	206	408	120	11	4
		8.8%	25.2%	49.9%	14.7%	1.3%	
l	全体的に見て、教育活動の改善に寄与した。	19	34	248	473	44	3
		2.3%	4.2%	30.3%	57.8%	5.4%	

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果(現況分析結果)の内容の分析を行いましたか。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1: 分析した 2: 分析しなかった】

1	2	無回答
198	616	7
24.3%	75.7%	

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=198)

【1: 役に立たなかった～5: 役に立った】

1	2	3	4	5	無回答
0	19	91	83	3	2
0.0%	9.7%	46.4%	42.3%	1.5%	

IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 教育に関する現況調査表の作成(各分析項目・観点の記載)を開始した時期をご回答ください。

～平成26年3月	26	3.2%
4月	13	1.6%
5月	6	0.7%
6月	6	0.7%
7月	10	1.2%
8月	6	0.7%
9月	7	0.9%
10月	8	1.0%
11月	7	0.9%
12月	3	0.4%
平成27年1月	19	2.3%
2月	7	0.9%
3月	19	2.3%
4月	86	10.5%
5月	53	6.5%
6月	53	6.5%
7月	91	11.2%
8月	60	7.4%
9月	61	7.5%
10月	113	13.8%
11月	53	6.5%
12月	32	3.9%
平成28年1月	23	2.8%
2月	16	2.0%
3月	15	1.8%
4月	18	2.2%
5月	1	0.1%
6月	4	0.5%
無回答	5	

(2)上の問いで回答された作成開始時期以降、教育に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

②貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、教育に関する現況調査表の作成(達成状況報告書は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、教育の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

		作成担当者として記載あり	記載なし
教員等	理事・副学長、評価室等の長	131 16.0%	690 84.0%
	学部長・研究科長等	452 55.1%	369 44.9%
	副学部長・副研究科長等	507 61.8%	314 38.2%
	上記以外の教員	592 72.1%	229 27.9%
職員	部長、課長級	317 38.6%	504 61.4%
	課長補佐、係長級	642 78.2%	179 21.8%
	主任、係員級	401 48.8%	420 51.2%
	事務補佐員等	148 18.0%	673 82.0%
その他		47 5.7%	774 94.3%

(3)教育に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において教育に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IRなど)が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

関与あり	関与なし
284 34.6%	537 65.4%

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
~5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

1	2	3	4	5
116 32.7%	97 27.3%	53 14.9%	28 7.9%	61 17.2%

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4)今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かった~5:少なかった】

1	2	3	4	5	無回答
137 17.1%	202 25.3%	266 33.3%	149 18.6%	46 5.8%	21

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
7	40	212	491	67	4
0.9%	4.9%	25.9%	60.1%	8.2%	

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか。

【1:全くそう思わない～5:強くそう思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	14	58	232	453	60	4
		1.7%	7.1%	28.4%	55.4%	7.3%	
b	現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。	15	109	291	310	92	4
		1.8%	13.3%	35.6%	37.9%	11.3%	
c	共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	27	154	334	246	56	4
		3.3%	18.8%	40.9%	30.1%	6.9%	
d	学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	7	66	244	398	102	4
		0.9%	8.1%	29.9%	48.7%	12.5%	
e	現況調査表の分量をより少なくすべきである。	7	102	320	278	110	4
		0.9%	12.5%	39.2%	34.0%	13.5%	
f	評価報告書の分量をより少なくすべきである。	19	149	413	166	69	5
		2.3%	18.3%	50.6%	20.3%	8.5%	
g	評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。	30	152	400	186	48	5
		3.7%	18.6%	49.0%	22.8%	5.9%	
h	評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	21	104	333	289	68	6
		2.6%	12.8%	40.9%	35.5%	8.3%	

学部・研究科等の研究の「現況分析」に関する検証アンケート 法人向け

n= 591

I 貴学部・研究科等における「研究に関する現況調査表」の作成作業について

問1 現況調査表の作成方法について

(1) 現況調査表では「想定する関係者とその期待」を記載し、学部・研究科等で想定する関係者の期待に応えているか、という視点で記載していただきました。このような方法で現況調査表を問題なく作成できましたか。

【1: 作成しづらかった～5: 問題なく作成できた】

1	2	3	4	5	無回答
32	124	108	288	38	1
5.4%	21.0%	18.3%	48.8%	6.4%	

(2) 現況調査表では、分析項目「I 研究活動の状況」、「II 研究成果の状況」の各観点、及び「質の向上度」ごとに記載していただきました。それぞれの項目について、記載は容易でしたか、難しかったですか。

【1: 難しかった～5: 容易だった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	「I 研究活動の状況」 研究活動の状況 共同利用・共同研究の実施状況	7	90	219	225	49	1
		1.2%	15.3%	37.1%	38.1%	8.3%	
b	「II 研究成果の状況」 研究成果の状況	12	119	225	193	40	2
		2.0%	20.2%	38.2%	32.8%	6.8%	
c	「質の向上度」	40	232	203	96	16	4
		6.8%	39.5%	34.6%	16.4%	2.7%	

(3) 現況調査表では、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかや、どのような根拠となる資料・データを示すかは、各大学等に委ねていました。

①このような方法により、貴学部・研究科等の個性的な取組を記載できたと思われましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

1	2	3	4	5	無回答
3	29	166	360	31	2
0.5%	4.9%	28.2%	61.1%	5.3%	

②このような方法によって、以下のような問題を感じましたか。

【1: 全くそう思わない～5: 強くそう思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	活動や成果をどのように記載すればよいか迷うことがあった。	8	138	117	296	31	1
		1.4%	23.4%	19.8%	50.2%	5.3%	
b	根拠となる資料・データの内容や様式をどのようにすればよいか迷うことがあった。	5	127	114	304	39	2
		0.8%	21.6%	19.4%	51.6%	6.6%	

(4) 観点ごとに水準判定された際、実績報告書作成要領に記載された段階判定（「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定）の基準は明確でしたか。

【1: わかりづらかった～5: 明確であった】

1	2	3	4	5	無回答
28	150	192	201	18	2
4.8%	25.5%	32.6%	34.1%	3.1%	

(5) 現況調査表の字数の上限は、現況調査表を作成する上で適切でしたか。

【1: 少なかった～5: 多かった】

1	2	3	4	5	無回答
36	157	360	31	3	4
6.1%	26.7%	61.3%	5.3%	0.5%	

問2 研究業績説明書について

(1) 今回の研究業績説明書では、論文等ごとの提出ではなく、1つの「研究業績」に代表的な研究成果(論文等)を最大3つまで記載する方式をとり、「研究業績」を単位として提出していただきました。この方法で研究業績説明書を作成しづらい点がありましたか。作成しづらい点があった場合は、具体的な内容もご記入ください。

【1: 作成しづらい点があった 2: 作成しづらい点はなかった】

1	2	無回答
209	378	4
35.6%	64.4%	

(2) 研究業績説明書では、各研究業績について「SS」あるいは「S」と判断した根拠を第三者による評価結果や客観的指標に基づいて記載していただきました。

①「学術的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 非常に少なかった(～2割未満)～5: 非常に多かった(8割～)】

1	2	3	4	5	無回答
1	29	217	235	104	5
0.2%	4.9%	37.0%	40.1%	17.7%	

②「社会、経済、文化的意義」を有すると判断した研究業績について、根拠を十分に記載できましたか。提出した業績の中で根拠を十分に記載できたと思う割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 非常に少なかった(～2割未満)～5: 非常に多かった(8割～)】

1	2	3	4	5	無回答
12	76	249	174	66	14
2.1%	13.2%	43.2%	30.2%	11.4%	

(3) 研究業績の選定に際しては、「学術的意義」および／あるいは「社会、経済、文化的意義」について、「SS」あるいは「S」に該当する研究業績を選定していただきました。

①学術的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判断を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた
～5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

1	2	3	4	5	無回答
11	62	172	235	104	7
1.9%	10.6%	29.5%	40.2%	17.8%	

②社会、経済、文化的意義について、「SS」、「S」、「S未満」の間の判断はしやすかったですか。提出した研究業績の中で確信をもって判断を下すことができた割合を以下の5段階からご回答ください。

【1: 2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた
～5: 8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

1	2	3	4	5	無回答
26	99	209	182	56	19
4.5%	17.3%	36.5%	31.8%	9.8%	

(4)第1期中期目標期間の国立大学法人評価では、各研究業績の意義について「学術的意義」と「社会、経済、文化的意義」のどちらか一方から選択することを求めていましたが、今回の評価では、各研究業績で両方の意義を同時に選択することも可能としました。それにより研究業績説明書は作成しやすかったですか、作成しづらかったですか。

【1:作成しづらかった～5:作成しやすかった】

1	2	3	4	5	無回答
6	55	238	215	70	7
1.0%	9.4%	40.8%	36.8%	12.0%	

問3 参考資料の活用について

(1)学系ごとの「参考例」について

人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育の7学系については、分野ごとの研究活動や成果の特徴を踏まえて、大学等が現況調査表に記載することが予想される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を事前に公表しました。

①現況調査表の作成にあたり、「参考例」は確認されましたか。

【1:確認した 2:確認しなかった(該当する学系の「参考例」が公表されていない場合を含む)】

1	2	無回答
394	194	3
67.0%	33.0%	

②上の問いで「確認した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=394)

a	事前に記載する取組や成果のイメージがついた。	317 80.5%
b	現況調査表に「参考例」を踏まえた記載をした。	270 68.5%
c	観点ごとの段階判定をする際の参考になった。	189 48.0%
d	例示の種類がより多ければ良いと感じた。	202 51.3%
e	例示の数を少なくすると良いと感じた。	6 1.5%
f	例示をより具体的にすると良いと感じた。	212 53.8%
g	自学部・研究科等にふさわしい例示が少ないと感じた。	136 34.5%

③「参考例」には、研究業績説明書を作成する際に参考にし得るよう「卓越した研究業績の根拠・データ例」を記載していました。研究業績説明書の作成において参照されましたか。

【1:参照した 2:参照しなかった】

1	2	無回答
385	200	6
65.8%	34.2%	

④上の問いで「参照した」と回答された場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=385)

a	事前に根拠データのイメージがついた。	306
		79.5%
b	多様な根拠データがありうる事が理解できた。	257
		66.8%
c	例示の種類がより多ければ良いと感じた。	198
		51.4%
d	例示をより限定すると良いと感じた。	15
		3.9%
e	選定した研究業績の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた。	103
		26.8%
f	根拠データ例ごとに「SS」、「S」、「S未満」の判定基準の提示が必要と感じた。	244
		63.4%

(2)「データ分析集」について

①今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを提供しました。現況調査表を作成するにあたり、「データ分析集」を確認されましたか。

【1:確認した 2:確認しなかった】

1	2	無回答
279	283	29
49.6%	50.4%	

②上の問いで「確認した」と回答された場合、現況調査表を作成する上で根拠となる資料・データとして参考になりましたか。(n=279)

【1:参考になる情報ではなかった～5:根拠となる資料・データとして参考になる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
6	69	160	38	4	2
2.2%	24.9%	57.8%	13.7%	1.4%	

問4 貴大学等から提出した現況調査表について

提出した現況調査表について、どのような感想をお持ちですか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

a	学部・研究科等の目的を明確に記載することができた。	1	8	43	398	140	無回答
		0.2%	1.4%	7.3%	67.5%	23.7%	1
b	「想定する関係者の期待」を明確に記載することができた。	1	51	163	305	70	1
		0.2%	8.6%	27.6%	51.7%	11.9%	1
c	研究活動による成果を具体的に説明することができた。	0	13	70	380	127	1
		0.0%	2.2%	11.9%	64.4%	21.5%	1
d	研究活動の優れている点を具体的に説明することができた。	0	12	75	372	131	1
		0.0%	2.0%	12.7%	63.1%	22.2%	1
e	評価するのに必要な根拠・データを現況調査表に記載することができた。	1	13	131	352	93	1
		0.2%	2.2%	22.2%	59.7%	15.8%	1
f	一般社会の人にも理解しやすい現況調査表を作成することができた。	5	71	289	205	20	1
		0.8%	12.0%	49.0%	34.7%	3.4%	1
g	全体的に見て、現況調査表の完成度は満足できるものとなった。	1	15	147	360	67	1
		0.2%	2.5%	24.9%	61.0%	11.4%	1

II 大学改革支援・学位授与機構による評価方法・評価結果について

問1 確認事項の照会について

今回の評価では、評価者から大学等に確認事項の照会や資料提出の依頼を行いました。これらの方法について、適切だったと感ずますか。

【確認事項・資料提出依頼のあった学部・研究科等のみ(n=117)】

【1:適切でなかった～5:適切であった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	確認事項の照会や資料提出の依頼の方法(時期や量)	0	3	45	59	7	3
		0.0%	2.6%	39.5%	51.8%	6.1%	
b	確認事項の照会や資料提出の依頼の内容	1	3	46	56	8	3
		0.9%	2.6%	40.4%	49.1%	7.0%	

問2 評価結果(現況分析結果)について

平成29年6月に公表しました貴学部・研究科等の評価結果(現況分析結果)の内容について、全体的にどのように思われましたか。

【1:当てはまらない～5:当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	貴学部・研究科等の目的を踏まえていた。	1	26	78	388	96	2
		0.2%	4.4%	13.2%	65.9%	16.3%	
b	貴学部・研究科等の研究の実態を反映していた。	2	33	102	351	101	2
		0.3%	5.6%	17.3%	59.6%	17.1%	
c	各分析項目・観点の段階判定は納得のいくものであった。	5	45	108	322	109	2
		0.8%	7.6%	18.3%	54.7%	18.5%	
d	観点の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。	2	35	136	330	85	3
		0.3%	6.0%	23.1%	56.1%	14.5%	
e	質の向上度の段階判定は納得のいくものであった。	9	33	146	289	110	4
		1.5%	5.6%	24.9%	49.2%	18.7%	
f	質の向上度の判断理由に書かれた内容(指摘点)は納得のいくものであった。	7	23	160	301	96	4
		1.2%	3.9%	27.3%	51.3%	16.4%	
g	全体的に、適正に評価された。	6	31	94	344	114	2
		1.0%	5.3%	16.0%	58.4%	19.4%	

問3 研究業績の水準判定結果について

(1) 現況分析結果には、2人の評価者が「SS」と判定した研究業績の名称を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。

【1:納得できなかった～5:納得できた】

1	2	3	4	5	無回答
3	35	141	316	78	18
0.5%	6.1%	24.6%	55.1%	13.6%	

(2) 現況分析結果には、提出された研究業績のうち、「SS」や「S」と判定された割合を記載しました。その結果は納得のいくものでしたか。

【1:納得できなかった～5:納得できた】

1	2	3	4	5	無回答
2	56	159	310	59	5
0.3%	9.6%	27.1%	52.9%	10.1%	

Ⅲ 評価による貴学部・研究科等の研究活動への効果・影響について

問1 評価の効果について

今回行った、研究の現況を自己分析して報告し、外部者の評価を受けるという一連の過程によって、貴学部・研究科等において以下の効果や影響があった(あるいは今後 to 顕在化する)と思われますか。

【1: 当てはまらない～5: 当てはまる】

		1	2	3	4	5	無回答
a	研究成果の質や水準を重視するようになった。	12	40	168	307	63	1
		2.0%	6.8%	28.5%	52.0%	10.7%	
b	研究成果の社会・経済・文化的意義を重視するようになった。	11	43	228	260	46	3
		1.9%	7.3%	38.8%	44.2%	7.8%	
c	萌芽的な研究や挑戦的な研究を重視するようになった。	20	84	337	119	29	2
		3.4%	14.3%	57.2%	20.2%	4.9%	
d	研究に関する学部・研究科等内の戦略(重点分野等)形成を重視するようになった。	10	51	205	255	69	1
		1.7%	8.6%	34.7%	43.2%	11.7%	
e	研究活動の今後の課題を把握できた。	10	53	227	244	56	1
		1.7%	9.0%	38.5%	41.4%	9.5%	
f	教職員の間で研究活動についての組織的な方向性が共有された。	16	67	307	182	17	2
		2.7%	11.4%	52.1%	30.9%	2.9%	
g	学部長・研究科長等のリーダーシップが高まった。	20	79	295	163	32	2
		3.4%	13.4%	50.1%	27.7%	5.4%	
h	若手教員の研究活動が把握され、活性化できた。	15	81	300	178	15	2
		2.5%	13.8%	50.9%	30.2%	2.5%	
i	社会に対し大学等の研究活動を説明することの重要性が浸透した。	12	42	232	270	34	1
		2.0%	7.1%	39.3%	45.8%	5.8%	
j	学部・研究科や学科・専攻等の部局間の競争意識が高まった。	47	131	309	90	10	4
		8.0%	22.3%	52.6%	15.3%	1.7%	
k	大学等間の競争意識が生まれた。	46	134	288	107	13	3
		7.8%	22.8%	49.0%	18.2%	2.2%	
l	全体的に見て、研究活動の改善に寄与した。	14	39	223	279	34	2
		2.4%	6.6%	37.9%	47.4%	5.8%	

問3 他大学等の評価結果の分析状況について

同一学系内の他大学等の学部・研究科等について、評価結果(現況分析結果)の内容の分析を行いましたか。

(1) 他大学等の評価結果の内容を分析しましたか。

【1: 分析した 2: 分析しなかった】

1	2	無回答
145	444	2
24.6%	75.4%	

(2) 上の問いで「分析した」と回答された場合、分析した結果は役に立ちましたか。(n=145)

【1: 役に立たなかった～5: 役に立った】

1	2	3	4	5	無回答
0	13	52	75	4	1
0.0%	9.0%	36.1%	52.1%	2.8%	

IV 自己評価のための体制等について

問1 自己評価の体制・作業負担について

(1) 研究に関する現況調査表の作成(各分析項目・観点の記載や研究業績説明書の作成)を開始した時期をご回答ください。

～平成26年3月	21	3.6%
4月	4	0.7%
5月	6	1.0%
6月	6	1.0%
7月	10	1.7%
8月	2	0.3%
9月	4	0.7%
10月	12	2.1%
11月	8	1.4%
12月	6	1.0%
平成27年1月	12	2.1%
2月	8	1.4%
3月	14	2.4%
4月	54	9.2%
5月	41	7.0%
6月	35	6.0%
7月	60	10.3%
8月	40	6.8%
9月	48	8.2%
10月	86	14.7%
11月	34	5.8%
12月	26	4.4%
平成28年1月	8	1.4%
2月	14	2.4%
3月	8	1.4%
4月	10	1.7%
5月	2	0.3%
6月～	6	1.0%
無回答	6	

(2)上の問いで回答された作成開始時期以降、研究に関する現況調査表の作成作業を行った体制についてお聞きます。

②貴学部・研究科等の現況調査表の作成を主な職務として担当した教員・職員のうち、研究に関する現況調査表の作成(達成状況報告書は除く)を担当したおおむねの人数について、フルタイム換算により分かる範囲でご回答ください(たとえば、現況調査表作成開始以降から提出までの職務の半分が、研究の現況調査表作成に関する業務であれば、0.5人。フルタイム換算での回答がしづらければ、人/日、人/月などの回答でも結構です)。

		作成担当者として記載あり	記載なし
教員等	理事・副学長、評価室等の長	85 14.4%	506 85.6%
	学部長・研究科長等	372 62.9%	219 37.1%
	副学部長・副研究科長等	380 64.3%	211 35.7%
	上記以外の教員	422 71.4%	169 28.6%
職員	部長、課長級	226 38.2%	365 61.8%
	課長補佐、係長級	442 74.8%	149 25.2%
	主任、係員級	282 47.7%	309 52.3%
	事務補佐員等	126 21.3%	465 78.7%
その他		49 8.3%	542 91.7%

(3)研究に関する現況調査表の作成において、大学等内あるいは部局内において研究に関するデータの収集や分析を行う専門的な部署や人員(IRやURAなど)が関与しましたか。関与していた場合、関与した専門部署名や専門人材の職名等を以下にご記入いただき、関与の程度を以下の5段階からご回答ください。

(関与の有無)

関与あり	関与なし
234 39.6%	357 60.4%

(関与の程度)

【1:2割未満の中期計画についてデータ作成・分析に関与した
~5:8割以上の中期計画についてデータ作成・分析に関与した】

1	2	3	4	5
92 33.5%	63 22.9%	36 13.1%	38 13.8%	46 16.7%

※関与した専門部署名や専門人材の職名等ごとに集計しているため、割合の母数は上記設問「関与あり」の回答数と異なる。

(4)今回の現況調査表の作成に要した人員・時間は、国立大学法人評価の持つ意義を鑑みて、多かったですか、少なかったですか。

【1:多かったです~5:少なかった】

1	2	3	4	5	無回答
77 13.3%	177 30.5%	208 35.8%	93 16.0%	26 4.5%	10

問2 実績報告書作成要領について

現況調査表の作成方法は、実績報告書作成要領により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
2	26	142	376	39	6
0.3%	4.4%	24.3%	64.3%	6.7%	

V 今後の評価のあり方について

問1 今後の評価の方向性について

第3期中期目標期間の国立大学法人評価では、どのような評価のあり方を望まれますか。

【1:全くそう思わない～5:強くそう思う】

【現況分析】

		1	2	3	4	5	無回答
a	今後も各学系(分野)の大学教員を中心とする評価者が現況調査表を評価する方法で実施すべきである。	13	39	137	348	51	3
		2.2%	6.6%	23.3%	59.2%	8.7%	
b	現況調査表に共通的に記載すべき内容を定めるべきである。	12	76	216	224	61	2
		2.0%	12.9%	36.7%	38.0%	10.4%	
c	共通的に設定したデータ・指標をより用いた評価とすべきである。	14	112	240	178	45	2
		2.4%	19.0%	40.7%	30.2%	7.6%	
d	学系(分野)ごとの記載項目や評価基準をより明確にすべきである。	1	57	164	288	79	2
		0.2%	9.7%	27.8%	48.9%	13.4%	
e	現況調査表の分量をより少なくすべきである。	3	88	238	185	75	2
		0.5%	14.9%	40.4%	31.4%	12.7%	
f	評価報告書の分量をより少なくすべきである。	8	106	299	118	56	4
		1.4%	18.1%	50.9%	20.1%	9.5%	
g	評価報告書に詳細な結果を記載することが必要である。	19	114	288	141	25	4
		3.2%	19.4%	49.1%	24.0%	4.3%	
h	評価報告書に評価者による改善提案等のコメントを記載すべきである。	13	61	226	228	59	4
		2.2%	10.4%	38.5%	38.8%	10.1%	

【研究業績水準判定】

		1	2	3	4	5	無回答
i	今後も研究業績ごとに、同一分野の研究者が判定を行う方法(ピア・レビュー)で評価を実施すべきである。	9	26	117	355	81	3
		1.5%	4.4%	19.9%	60.4%	13.8%	
j	提出する研究業績数の上限を増やすべきである。	18	135	308	106	21	3
		3.1%	23.0%	52.4%	18.0%	3.6%	
k	提出した個々の研究業績について、その判定結果を大学等に通知すべきである。	15	52	192	255	74	3
		2.6%	8.8%	32.7%	43.4%	12.6%	
l	提出した個々の研究業績について、その判定結果を公表すべきである。	36	119	291	121	21	3
		6.1%	20.2%	49.5%	20.6%	3.6%	
m	個々の研究業績の提出内容(研究業績説明書)についても、現況調査表とあわせて公表すべきである。	30	106	301	128	22	4
		5.1%	18.1%	51.3%	21.8%	3.7%	

教育研究の「中期目標の達成状況評価」に関する検証アンケート 評価者向け

n= 145

I 大学から提出された達成状況報告書について

(1) 主担当・副担当をされた大学等(主担当・副担当がない場合にはチームで担当された大学等全体)の達成状況報告書について、どのように思われましたか。

【1:2割未満の記述が当てはまった～5:8割以上の記述が当てはまった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	中期目標・計画の達成状況が明確に記されていた	1	5	32	74	30	3
		0.7%	3.5%	22.5%	52.1%	21.1%	
b	計画実施により得られた成果が明確に示されていた	3	15	42	62	20	3
		2.1%	10.6%	29.6%	43.7%	14.1%	
c	評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた	4	21	50	51	16	3
		2.8%	14.8%	35.2%	35.9%	11.3%	
d	大学等の教育研究活動の実態がわかるものであった	2	14	38	62	26	3
		1.4%	9.9%	26.8%	43.7%	18.3%	
e	優れた点や特色ある点ができるものであった	3	13	29	64	33	3
		2.1%	9.2%	20.4%	45.1%	23.2%	
f	改善を要する点ができるものであった	19	27	55	24	16	4
		13.5%	19.1%	39.0%	17.0%	11.3%	
g	一般社会にも理解しやすい報告書であった	8	35	54	36	9	3
		5.6%	24.6%	38.0%	25.4%	6.3%	
h	全体的に見て、達成状況報告書は評価を行うのに十分に書かれていた	5	12	41	60	23	4
		3.5%	8.5%	29.1%	42.6%	16.3%	

(2) 達成状況報告書の記載についてお聞きします。

① 評価作業を実施する上で、以下のような達成状況報告書の記載方法は適切なものでしたか。

【1:適切でない～5:適切】

		1	2	3	4	5	無回答
a	大学等が中期計画ごとに達成状況を記載すること	2	3	14	96	28	2
		1.4%	2.1%	9.8%	67.1%	19.6%	
b	大学等が中期計画ごとに段階判定とその判断理由を記載すること	2	13	26	84	18	2
		1.4%	9.1%	18.2%	58.7%	12.6%	
c	大学等が優れた点・改善を要する点等を判断して記載すること	1	8	36	73	25	2
		0.7%	5.6%	25.2%	51.0%	17.5%	
d	個性の伸長に向けた取組に関わる計画を大学等が指定すること	2	8	31	67	35	2
		1.4%	5.6%	21.7%	46.9%	24.5%	

② 達成状況の具体的な記述内容や、どのような根拠データ・資料を示すかは、各大学等に委ねていました。このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

【1:全く思わない～5:強く思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	活動や成果の記載内容が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった	2	32	26	60	21	4
		1.4%	22.7%	18.4%	42.6%	14.9%	
b	記述の分量が大学等ごとに多様であったために、評価がしづらかった	0	36	38	52	15	4
		0.0%	25.5%	27.0%	36.9%	10.6%	
c	根拠データ・資料の内容や記載方法が大学等ごとに多様であったため、解釈しづらかった	1	24	31	66	18	5
		0.7%	17.1%	22.1%	47.1%	12.9%	

(3) 提出された達成状況報告書のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。

【1:少ない～5:多い】

1	2	3	4	5	無回答
2	13	91	30	7	2
1.4%	9.1%	63.6%	21.0%	4.9%	

II 評価方法・結果について

(1) 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価について

今回の評価では、「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の評価にあたっては、計画どおり実施できていない場合においても、教育研究の質の向上や高い研究水準の実現が確認できる場合には、プロセスや内容等を考慮し、判定することになっていました。

① 「戦略性が高く意欲的な目標・計画」に該当する中期計画の評価をされましたか。

【1:評価した 2:該当する中期計画がなかった 3:「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を認識していなかった】

1	2	3	無回答
115	21	6	3
81.0%	14.8%	4.2%	

② ①で評価したと回答された方にお聞きます。
評価を問題なくできましたか。(n=115)

【1:評価しづらかった～5:評価しやすかった】

1	2	3	4	5	無回答
2	29	26	51	7	0
1.7%	25.2%	22.6%	44.3%	6.1%	

(2) 現況分析結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当の学部・研究科等の現況調査表を記載することとし、評価者はその学部・研究科等の現況分析結果を参照し、判定することとしていました。

① 評価の際に現況分析結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

1	2	3	無回答
124	9	9	3
87.3%	6.3%	6.3%	

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。

該当する学部・研究科等の現況分析結果は、評価の際、どの程度参考になりましたか。(n=124)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
1	18	77	25	3	0
0.8%	14.5%	62.1%	20.2%	2.4%	

(3) 研究業績の水準判定結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、中期計画の実施状況の内容に関連する場合、該当する研究業績説明書を記載することとし、評価者はその研究業績の水準判定結果を参照し、判定することとしていました。

① 判定の際に研究業績の水準判定結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

1	2	3	無回答
113	18	10	4
80.1%	12.8%	7.1%	

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。
 該当する研究業績の水準判定結果は、判定の際、どの程度参考になりましたか。(n=113)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
2	16	60	29	6	0
1.8%	14.2%	53.1%	25.7%	5.3%	

(4) 機関別認証評価結果の活用

今回の評価では、大学等が達成状況報告書を記載する際に、必要に応じ、直近の機関別認証評価結果等を根拠資料として示すことができることとし、評価者は該当の資料を参照し、判定することとしていました。

① 判定の際に機関別認証評価結果を参照されましたか。

【1:参照した 2:参照すべき中期計画がなかった 3:参照することを認識していなかった】

1	2	3	無回答
82	23	36	4
58.2%	16.3%	25.5%	

② ①で参照したと回答された方にお聞きます。

該当する機関別認証評価結果は、判定の際、どの程度参考になりましたか。(n=82)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
2	17	51	12	0	0
2.4%	20.7%	62.2%	14.6%	0.0%	

(5) 書面調査について

① 主担当・副担当をされた大学等がある方にお聞きます。書面調査段階において評価判断(段階判定や判断理由の作成)を確信をもって行うことができましたか。(n=108)

【1:2割未満の中期計画のみに確信をもって判断を下すことができた
 ～5:8割以上の中期計画に確信をもって判断を下すことができた】

1	2	3	4	5	無回答
0	11	30	52	11	4
0.0%	10.6%	28.8%	50.0%	10.6%	

(6) 書面調査の後に、2回の達成状況判定会議やヒアリングを行い、最終的な評価結果を決定しました。最終的に決定された評価結果報告書の内容は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

【1:2割未満の中期計画の判定や記載内容が納得のいくものとなった
 ～5:8割以上の中期計画の判定や記載内容が納得のいくものとなった】

1	2	3	4	5	無回答
0	4	15	59	56	11
0.0%	3.0%	11.2%	44.0%	41.8%	

(7) 中期計画の段階判定(「非常に優れている」や「良好」などの判定)の基準は以下のようなものでした(下表参照)。これらの基準は明確でしたか。

【1:判断基準に迷った～5:判断基準は明確であった】

1	2	3	4	5	無回答
4	22	25	69	13	12
3.0%	16.5%	18.8%	51.9%	9.8%	

Ⅲ 大学等への確認事項の照会及びヒアリングについて

(1) 今回の評価では、大学等にヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼を行った上で、対面又はテレビ会議システムの利用によるヒアリングを行うという方法をとりました。これらの方法によって、評価作業を適切に行うことができましたか。

【1:適切でない～5:適切】

		1	2	3	4	5	無回答
a	大学等へのヒアリングに向けての確認事項の照会や資料提出の依頼	0	6	17	84	37	1
		0.0%	4.2%	11.8%	58.3%	25.7%	
b	ヒアリングにおける質疑応答による調査	0	4	15	80	43	3
		0.0%	2.8%	10.6%	56.3%	30.3%	

(2) ヒアリングは、大学によってはテレビ会議システムを用いて実施しました。テレビ会議システムを用いたヒアリングに参加された場合、ヒアリングでの質疑応答や意思疎通は適切に行うことができましたか。

【1:適切でない～5:適切】

	1	2	3	4	5	無回答
	1	16	13	62	21	32
	0.9%	14.2%	11.5%	54.9%	18.6%	

Ⅳ 参考資料について

(1) データ分析集の活用について

① 今回の評価では「データ分析集」として、学生数や外部資金の推移などの定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

	1	2	無回答
	130	15	0
	89.7%	10.3%	

② ①で参照したと回答された方にお聞きします。評価にどの程度参考になりましたか。(n=130)

【1:参考になる情報ではなかった～5:評価の際に参考にできる重要な情報であった】

	1	2	3	4	5	無回答
	1	20	68	33	7	1
	0.8%	15.5%	52.7%	25.6%	5.4%	

Ⅴ 評価作業と事前研修について

(1) 書面調査シートについて

主担当・副担当の方にお伺いします。評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。(n=108)

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

	1	2	3	4	5	無回答
	2	1	37	21	45	2
	1.9%	0.9%	34.9%	19.8%	42.5%	

(2) ウェブサイト(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

	1	2	3	4	5	無回答
	1	1	35	30	58	20
	0.8%	0.8%	28.0%	24.0%	46.4%	

(3) 作業時間等について

① 評価作業(会議等への出席時間を除き、書面調査シートへの入力や達成状況報告書の確認など)にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

a 主担当の方にお伺いします。(n=77)

主担当の大学等の書面調査等にかかった時間

～10時間	18
11時間～20時間	21
21時間～30時間	11
31時間～40時間	9
41時間～50時間	8
51時間～60時間	2
61時間～70時間	0
71時間～80時間	2
81時間～90時間	0
91時間～100時間	1
101時間～	5
無回答	0

副担当の大学等の書面調査等にかかった時間

～10時間	32
11時間～20時間	19
21時間～30時間	12
31時間～40時間	4
41時間～50時間	3
51時間～60時間	2
61時間～70時間	1
71時間～80時間	1
81時間～90時間	0
91時間～100時間	0
101時間～	2
無回答	1

b 副担当(主担当大学等がない方)、チーム主査、有識者の方にお伺いします。(n=68)

チームの大学等の書面調査等にかかった時間

～10時間	24
11時間～20時間	11
21時間～30時間	2
31時間～40時間	4
41時間～	3
無回答	24

② チームごとの担当大学等の数は適切でしたか。多すぎて全ての大学等の情報の精査について負担が大きかったですか、それとも、少なすぎて他大学等の情報が無くて評価がしにくいなどの問題がありましたか。

【1:非常に少なかった～5:非常に多かった】

1	2	3	4	5	無回答
0	5	113	16	1	10
0.0%	3.7%	83.7%	11.9%	0.7%	

(5) 評価者研修会について
 評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
1	15	37	62	20	10
0.7%	11.1%	27.4%	45.9%	14.8%	

(6) 評価作業マニュアルについて
 評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
1	1	22	90	23	8
0.7%	0.7%	16.1%	65.7%	16.8%	

「国立大学法人及び大学共同利用機関法人における教育研究の状況についての評価」 学部・研究科等の「現況分析」に関する検証アンケート 評価者向け

n= 199

I 大学から提出された現況調査表について

(1) 主・副担当をされた現況調査表について(部会長・副部会長は確認された現況調査表全体について)、どのように思われましたか。

【1: 2割未満の現況調査表が当てはまった～5: 8割以上の現況調査表が当てはまった】

		1	2	3	4	5	無回答
a	学部・研究科等の目的が明確に記されていた	2	3	25	76	93	0
		1.0%	1.5%	12.6%	38.2%	46.7%	
b	「想定する関係者の期待」が明確に記されていた	2	19	56	76	46	0
		1.0%	9.5%	28.1%	38.2%	23.1%	
c	評価するのに必要な根拠・データが報告書内に記されていた	1	19	63	74	42	0
		0.5%	9.5%	31.7%	37.2%	21.1%	
d	教育・研究活動の優れている点が具体的に説明されていた	2	8	31	99	59	0
		1.0%	4.0%	15.6%	49.7%	29.6%	
e	教育・研究活動による成果が具体的に説明されていた	1	12	49	86	50	1
		0.5%	6.1%	24.7%	43.4%	25.3%	
f	全体的に見て、現況調査表は評価を行うのに十分に書かれていた	2	12	55	80	47	3
		1.0%	6.1%	28.1%	40.8%	24.0%	

(2) 現況調査表は、評価項目・観点ごとに具体的に何を記載するかやどのような根拠データ・資料を示すかは、各大学に委ねています。

① このような方法により、各学部・研究科等の個性的な取組が把握できたと思われませんか。

【1: 全く思わない～5: 強く思う】

1	2	3	4	5	無回答
1	23	63	107	5	0
0.5%	11.6%	31.7%	53.8%	2.5%	

② このような方法によって、以下のような課題を感じられましたか。

【1: 全く思わない～5: 強く思う】

		1	2	3	4	5	無回答
a	活動や成果の記載内容が大学ごとに多様であったために、評価がしづらかった	1	53	53	80	12	0
		0.5%	26.6%	26.6%	40.2%	6.0%	
b	根拠データ・資料の記述内容や記載様式が大学ごとに多様であったため、解釈しづらかった	0	47	43	97	12	0
		0.0%	23.6%	21.6%	48.7%	6.0%	

(3) 提出された現況調査表のページ数(分量)は、評価を実施する上で適切でしたか。

【1: 少ない～5: 多い】

1	2	3	4	5	無回答
3	28	126	36	5	1
1.5%	14.1%	63.6%	18.2%	2.5%	

II 評価方法について

(1) 主・副担当をされた学部・研究科等について(部会長・副部会長は全体について)、書面調査段階において評価判断を確信をもって行うことができましたか。

【1: 2割未満の現況調査表のみに確信をもって判断を下すことができた
～5: 8割以上の現況調査表で確信をもって判断を下すことができた】

	1	2	3	4	5	無回答
教育水準	2	23	44	93	35	2
	1.0%	11.7%	22.3%	47.2%	17.8%	
研究水準	2	9	39	106	43	0
	1.0%	4.5%	19.6%	53.3%	21.6%	

(2) 評価者による書面調査の後に、機構内の2回の部会において評価結果(段階判定を含む)の調整を行いました。調整を経て決定された評価結果は、評価者として納得のいくものとなりましたか。

【1: 納得のいくものではなかった～5: 納得のいくものであった】

1	2	3	4	5	無回答
3	11	26	117	42	0
1.5%	5.5%	13.1%	58.8%	21.1%	

(3) 分析項目ごとに評価を行う難しさは異なりましたか。

【1: 難しかった～5: 容易だった】

	1	2	3	4	5	無回答
I 教育活動の状況(教育実施体制、教育内容・方法)	7	43	63	75	9	2
	3.6%	21.8%	32.0%	38.1%	4.6%	
II 教育成果の状況(学業の成果、進路・就職の状況)	3	61	62	66	4	3
	1.5%	31.1%	31.6%	33.7%	2.0%	
教育の質の向上度	18	92	56	23	2	8
	9.4%	48.2%	29.3%	12.0%	1.0%	
I 研究活動の状況(研究活動の状況、共同利用・共同研究の実施状況)	3	18	65	103	9	1
	1.5%	9.1%	32.8%	52.0%	4.5%	
II 研究成果の状況	5	33	53	89	16	3
	2.6%	16.8%	27.0%	45.4%	8.2%	
研究の質の向上度	11	77	62	45	4	0
	5.5%	38.7%	31.2%	22.6%	2.0%	

(4) ① 「研究成果の状況」の分析項目については、学部・研究科等を代表する研究業績(専任教員数の20%程度を目安)の「研究業績水準判定結果一覧表」(SS, S, S未満の数・割合やSSとした判断根拠)を評価者に提供しました。研究業績水準判定結果は、「研究成果の状況」を判定する資料として参考になるものでしたか。

【1: 参考になる情報ではなかった～5: 判定の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
3	14	74	72	36	0
1.5%	7.0%	37.2%	36.2%	18.1%	

(4)－②参考にならなかった理由があれば、当てはまる選択肢全てにチェックを付けてください(複数選択可)。

a	専任教員数の20%程度の研究業績では全体状況がわからないから	29
		14.6%
b	SS, S, S未満と判断された基準が不明瞭であったから	60
		30.2%
c	他大学の学部・研究科等の判定結果との比較ができなかったから	59
		29.6%
d	大学によって業績数の提出状況が異なるから	40
		20.1%

(5)評価は、大学が記載した「想定する関係者の期待」に基づいて判断を行っていただきました。このような判断基準で評価を問題なくできましたか。

【1:評価がしづらかった～5:問題なく評価ができた】

1	2	3	4	5	無回答
11	71	59	55	3	0
5.5%	35.7%	29.6%	27.6%	1.5%	

(6)段階判定(「期待される水準を上回る」や「期待される水準にある」などの判定)の基準は明確でしたか。

【1:判断基準に迷った～5:判断基準は明確であった】

1	2	3	4	5	無回答
12	84	35	66	2	0
6.0%	42.2%	17.6%	33.2%	1.0%	

Ⅲ 参考資料について

(1)－①人文、社会、理学、工学、農学、保健、教育学系については、現況調査表に記載されることが期待される取組や成果の事例を挙げた「参考例」を研修会にて配付しました。評価作業の前に「参考例」は確認されましたか。

【1:確認した 2:確認していない】

1	2	無回答
160	37	2
81.2%	18.8%	

(1)－②上の問いで「確認した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=160)

a	事前に優れた取組や成果のイメージがついた	62
		38.8%
b	評価判断をする際の参考になった	115
		71.9%
c	例示がもっと多種類であると良いと感じた	47
		29.4%
d	例示の数を少なくすると良いと感じた	3
		1.9%
e	例示をもっと具体的にすると良いと感じた	42
		26.3%
f	担当の学系にふさわしい例示が少ないと感じた	31
		19.4%
g	実際の現況調査表には参考例を踏まえた記述がなされていた	12
		7.5%

(2)－①今回の評価では「データ分析集」として、学部・研究科等に関する定量的データを評価者に提供しました。「データ分析集」は参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

1	2	無回答
177	21	1
89.4%	10.6%	

(2)－②上の問いで「参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。(n=177)

【1:参考になる情報ではなかった～5:判定の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
3	29	112	27	6	0
1.7%	16.4%	63.3%	15.3%	3.4%	

IV 評価作業と事前研修について

(1)書面調査シートについて

評価作業はマイクロソフト社のExcelによる「書面調査シート」で行っていただきました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

1	2	3	4	5	無回答
24	13	74	42	46	0
12.1%	6.5%	37.2%	21.1%	23.1%	

(2)ウェブ(書面調査システム)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(書面調査システム)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

1	2	3	4	5	無回答
8	12	74	39	65	1
4.0%	6.1%	37.4%	19.7%	32.8%	

(3)－①書面調査にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

～5時間	23
6時間～15時間	56
16時間～25時間	43
26時間～35時間	23
36時間～45時間	18
46時間～55時間	11
56時間～65時間	5
66時間～	14
その他・無回答	6

(3)－②評価担当の現況調査表の数(担当の学部・研究科等の数)は多すぎましたか、それとも、少なすぎて他大学の情報が無くて評価がしにくい等の問題がありましたか。

【1:非常に少なかった～5:分量が非常に多かった】

1	2	3	4	5	無回答
3	13	108	62	11	2
1.5%	6.6%	54.8%	31.5%	5.6%	

(4) 評価者研修会について
 評価方法は、評価者研修会により理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
1	45	48	94	7	4
0.5%	23.1%	24.6%	48.2%	3.6%	

(5) 評価作業マニュアルについて
 評価方法は、評価作業マニュアルにより理解できましたか。

【1:理解できなかった～5:理解できた】

1	2	3	4	5	無回答
0	12	27	145	13	2
0.0%	6.1%	13.7%	73.6%	6.6%	

研究業績水準判定作業に関する検証アンケート 評価者向け

n= 416

1. 大学から提出された研究業績について

(1)「学術的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。

【1:非常に少なかった(～2割未満)～5:非常に多かった(8割～)】

1	2	3	4	5	無回答
5	44	176	156	35	0
1.2%	10.6%	42.3%	37.5%	8.4%	

(2)「社会・経済・文化的意義」を判断する研究業績について、どの程度の割合の業績に判断を行うための根拠が十分に記述されていましたか。

【1:非常に少なかった(～2割未満)～5:非常に多かった(8割～)】

1	2	3	4	5	無回答
14	119	189	78	11	5
3.4%	29.0%	46.0%	19.0%	2.7%	

2. 参考資料について

(1)―①6月中旬に配付しました、各論文の被引用数等のデータ(研究業績説明書【被引用数データ付き】)を判定の際に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない 3:担当細目には配付がなかった】

1	2	3	無回答
339	68	9	0
81.5%	16.3%	2.2%	

(1)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、被引用数データはどの程度参考になりましたか。(n=339)

【1:判定の参考にはしなかった～5:最も重要な根拠として参考にした】

1	2	3	4	5	無回答
22	95	148	65	9	0
6.5%	28.0%	43.7%	19.2%	2.7%	

(2)―①6月初旬に配付しました、「被引用数の閾値リスト」を判定の際に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

1	2	無回答
238	167	11
58.8%	41.2%	

(2)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、判定にどの程度参考になりましたか。(n=238)

【1:参考になる情報ではなかった～5:判定の際に参考にできる重要な情報であった】

1	2	3	4	5	無回答
12	65	119	32	9	1
5.1%	27.4%	50.2%	13.5%	3.8%	

(3)―①評価者研修会にて「参考例」として卓越した研究業績の根拠データの分野ごとの例を配付しました。判定作業の前に参照されましたか。

【1:参照した 2:参照していない】

1	2	無回答
346	63	7
84.6%	15.4%	

(3)―②上の問いで「1:参照した」と回答した場合、以下から当てはまるものを全て選んでください(複数選択可)。(n=346)

事前に根拠データのイメージがついた	246 71.1%
多様な根拠データがありうることが理解できた	183 52.9%
例示がもっと多種類であると良いと感じた	87 25.1%
例示をもっと限定すると良いと感じた	8 2.3%
自分の細目に適した根拠データの例示が少ないと感じた	50 14.5%
根拠データ例ごとにSS、S、S未満の判定の基準の提示が必要と感じた	111 32.1%

3. 判定について

(1)ご担当の細目の専門領域の範囲を超える(担当細目の専門知識では判断しづらい)研究業績がありましたか。あった場合は、およその割合もお答えください。

【1:なかった 2:あった】

1	2	無回答
297	119	0
71.4%	28.6%	

あった場合、およその割合(n=119)

0.5割	3 2.5%
1割	33 28.0%
1.5割	1 0.8%
2割	47 39.8%
3割	21 17.8%
4割	7 5.9%
5割	4 3.4%
6割	1 0.8%
9割	1 0.8%
無回答	1

(2) 学術的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか？

【1:2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた
～5:8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

1	2	3	4	5	無回答
3	23	53	211	124	2
0.7%	5.6%	12.8%	51.0%	30.0%	

(3) 社会・経済・文化的意義について、「SS」「S」「S未満」の間の判断はしやすかったですか？

【1:2割未満の業績のみに確信をもって判断を下すことができた
～5:8割以上の業績で確信をもって判断を下すことができた】

1	2	3	4	5	無回答
8	39	125	158	77	9
2.0%	9.6%	30.7%	38.8%	18.9%	

(4) 今回の研究業績判定では、一つの「研究業績」に三編までの論文等を記載する方式をとり、「研究業績」を単位として判定をしていただきました。この方法で判定がしづらいことがありましたか。あった場合は、具体的な内容もご記入ください。

【1:なかった 2:あった】

1	2	無回答
324	90	2
78.3%	21.7%	

4. 作業について

(1) 作業時間について

研究業績判定にかかった、おおむねの作業時間をお答えください。

3時間未満	39	10.4%
3～5時間	117	31.2%
6～10時間	120	32.0%
11～15時間	33	8.8%
16～20時間	31	8.3%
21～30時間	20	5.3%
31～40時間	5	1.3%
41～50時間	8	2.1%
51時間以上	2	0.5%
無回答	41	

(2) 判定した業績数に関するご認識について

【1:分量が非常に多かった～5:問題なく作業できる分量であった】

1	2	3	4	5	無回答
6	10	117	91	189	3
1.5%	2.4%	28.3%	22.0%	45.8%	

(3) ウェブ(オンラインストレージ)による作業について

ファイルの受け渡しを、ウェブサイト(オンラインストレージ)を用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

1	2	3	4	5	無回答
12	16	120	82	186	0
2.9%	3.8%	28.8%	19.7%	44.7%	

(4) Excelを用いた作業について

研究業績の判定はマイクロソフト社のExcelのファイルを用いて行いました。その使い勝手はいかがでしたか。

【1:作業しづらかった～5:問題なく作業ができた】

1	2	3	4	5	無回答
28	29	102	62	195	0
6.7%	7.0%	24.5%	14.9%	46.9%	